

御岳田遺跡

小売店舗建設事業に伴う
古墳・平安時代遺跡の発掘調査報告書

1999

敷島町教育委員会

敷島町文化財調査報告第8集
(山梨県)

御岳田遺跡

小売店舗建設事業に伴う
古墳・平安時代遺跡の発掘調査報告書

1999

敷島町教育委員会

序 文

敷島町は、山岳、丘陵、扇状地と起伏に富んだ地形を持つ町です。このような地形が生活環境に適していたのでしょう、本町には縄文時代からの多くの貴重な文化遺産が存在し、その一部が発掘調査によって私達の眼前に姿を現して過去の様子を物語ってくれます。

昭和52年の金の尾遺跡の発見、昭和62年の天狗沢瓦窯の発見に続き、平成4年に店舗建設に伴う試掘調査によって新たに発見されたのがこの【御岳田遺跡】であります。

古墳、平安時代の住居跡や祭祀に関係する跡など、貴重な成果を得ることができ、敷島町の歴史の1コマを付け加えることができました。

今後は、調査で得られました資料が研究や教育に活用され、2次的成果をあげられるよう努力をしていきたいとおもいます。

最後に、株式会社オギノの文化財保護と考古学に対する深い見識のもとに調査が行われ、ここに報告書を刊行することができ、また、多くの方々よりご協力をいただきましたことに厚く感謝いたし序とします。

平成11年9月

敷島町教育委員会

教育長 中 山 昭

例　　言

1. 本報告書は、山梨県中巨摩郡敷島町大下条に所在する御岳田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、株式会社オギノによる店舗建設に伴う発掘調査である。発掘調査から報告書刊行までの経費は株式会社オギノが負担した。
3. 試掘調査は平成4年(1992)11月に行い、この結果を踏まえて発掘調査は平成5年(1993)4月7日より同年7月12日まで行った。整理作業は断続的に行った。
4. 発掘調査にあたった組織は、次のとおりである。

調査主体者 敷島町教育委員会

調査担当者 大島正之(敷島町教育委員会生涯教育課主任)

調査事務局 敷島町教育委員会・株式会社オギノ

5. 本書の執筆、編集は大島正之が行い、第3章は石神孝子氏(県埋蔵文化財センター文化財主事)が担当した。遺構、遺物の写真は大島が撮影し、遺跡空中撮影は株式会社シン技術コンサルが行った。
6. 出土石製品の材質鑑定は、宮里学氏(県埋蔵文化財センター文化財主事)が担当した。
7. 発掘調査並びに報告書作成にあたり次の方々よりご指導、ご協力を戴いた。ここにご芳名を記して厚く感謝申し上げる。

羽中田壯雄(敷島町文化財審議会)、十菱駿武(山梨学院大学)、坂本美夫、小林健二、宮里 学、
石神孝子(県埋蔵文化財センター)、保坂広昭、池谷建材店
(順不同、敬称略)

8. 発掘調査・整理作業参加者

野中はるみ、三井清広、羽中田俊子、関本芳子、高添美智子、清水光子、浅川松子、小林邦隆、
尾澤玉枝、三井裕子、飯室久美恵、北原和江、兼子よし子、山本多美子、石川弘美、若月すみ
子、加藤千恵子、小林明美、小菅春江、小林早苗、山路宏美、長田由美子、堤吉彦
(順不同、敬称略)

9. 本遺跡の出土遺物及び調査で得られたすべての記録は一括して敷島町教育委員会に保管してある。

凡　　例

遺構図面中のスクリーントーン ■■■ は焼土範囲を示す。

遺物中のスクリーントーン ■■■ は内黒土器、■■■ は煤付着痕を示す。

出土遺物観察表中、遺物実測図中及び写真図版中の遺物番号は統一したものである。従って写真図版を掲載していない遺物もあるため同図版番号は必ずしも連続番号とはならない。

本文目次

| | |
|------------------|----|
| 序文 | |
| はじめに | 6 |
| 第1章 遺跡をとりまく環境 | |
| 1. 遺跡の立地と地理的環境 | 6 |
| 2. 遺跡周辺の歴史的環境 | 6 |
| 第2章 遺構と遺物 | |
| 1. 住居跡と遺物 | 8 |
| 2. 土坑 | 18 |
| 3. 穫穴状遺構 | 23 |
| 4. 祭祀遺構 | 23 |
| 5. 塚 | 23 |
| 6. 遺構外出土遺物 | 35 |
| 第3章 御岳田遺跡出土品について | 36 |
| 第4章 まとめ | 37 |

挿図目次

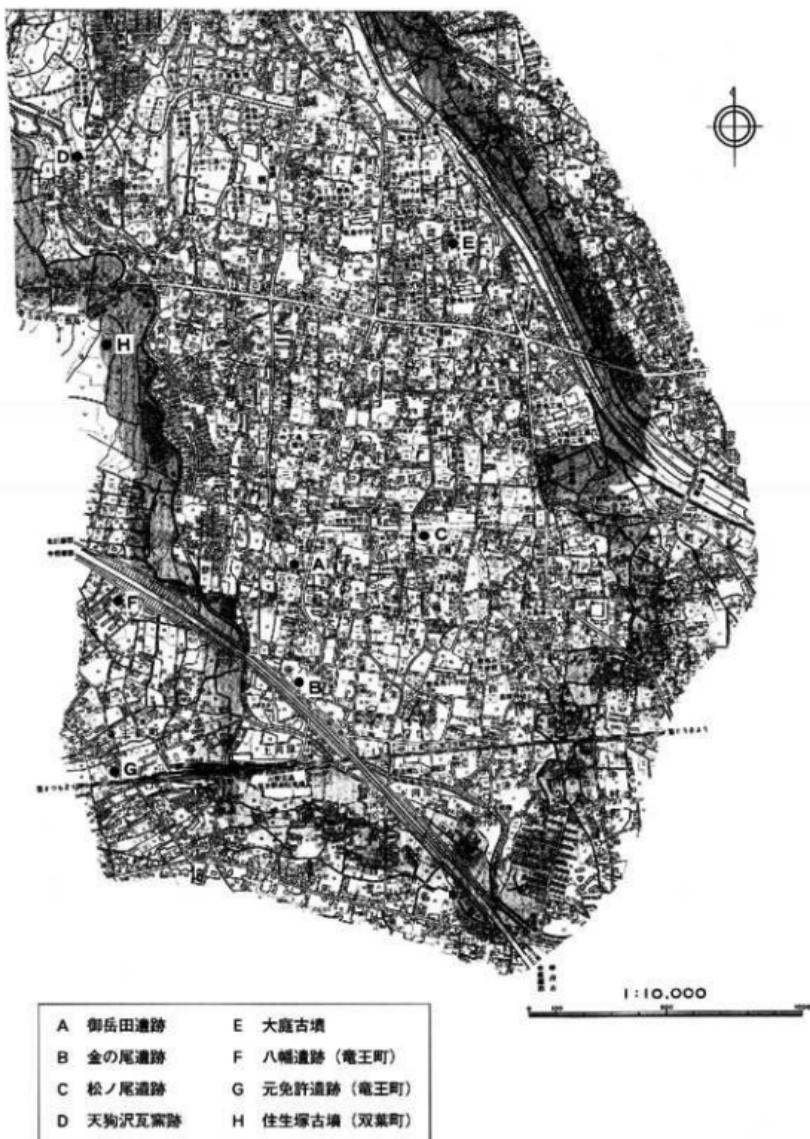
| | |
|---------------------|----|
| 第1図 御岳田遺跡・周辺遺跡位置図 | 5 |
| 第2図 御岳田遺跡遺構配置表面図 | 7 |
| 第3図 1号住居跡・出土遺物 | 8 |
| 第4図 2号住居跡・出土遺物 | 9 |
| 第5図 3号住居 | 10 |
| 第6図 3号住居跡・出土遺物 | 11 |
| 第7図 4号住居跡・出土遺物 | 12 |
| 第8図 5号住居跡・出土遺物 | 13 |
| 第9図 6号住居跡・出土遺物(1) | 14 |
| 第10図 6号住居跡・出土遺物(2) | 15 |
| 第11図 1～9号土坑 | 19 |
| 第12図 10～18号土坑 | 20 |
| 第13図 19～27号土坑 | 21 |
| 第14図 土坑出土遺物 | 22 |
| 第15図 1号竪穴状遺構・出土遺物 | 24 |
| 第16図 2号竪穴状遺構・出土遺物 | 25 |
| 第17図 3号竪穴状遺構・出土遺物 | 26 |
| 第18図 1号祭祀遺構・出土遺物(1) | 27 |
| 第19図 1号祭祀遺構・出土遺物(2) | 28 |
| 第20図 1号祭祀遺構・出土遺物(3) | 29 |
| 第21図 2号祭祀遺構・出土遺物(1) | 31 |
| 第22図 2号祭祀遺構・出土遺物(2) | 32 |
| 第23図 塚・出土遺物 | 33 |
| 第24図 遺構外出土遺物 | 34 |

表 目 次

| | | |
|------|---------------------|----|
| 第1表 | 住居跡出土遺物観察表（1～3号住居跡） | 16 |
| 第2表 | 住居跡出土遺物観察表（4～5号住居跡） | 17 |
| 第3表 | 土坑観察表 | 18 |
| 第4表 | 土坑出土遺物観察表 | 22 |
| 第5表 | 竪穴状遺物観察表 | 23 |
| 第6表 | 1号竪穴状遺構出土遺物観察表 | 24 |
| 第7表 | 2号竪穴状遺構出土遺物観察表 | 25 |
| 第8表 | 3号竪穴状遺構出土遺物観察表 | 26 |
| 第9表 | 1号祭祀遺構出土遺物観察表 | 30 |
| 第10表 | 2号祭祀遺構出土遺物観察表 | 32 |
| 第11表 | 塚出土遺物観察表 | 33 |
| 第12表 | 遺構外出土遺物観察表（石器・石製品） | 35 |
| 第13表 | 遺構外出土遺物観察表（土器） | 35 |
| 第14表 | 遺構時期分類 | 37 |

写真図版目次

| | |
|---------|--------------------|
| 写真図版 1 | 御岳田遺跡全景 |
| 写真図版 2 | 1～3号住居跡全景 |
| 写真図版 3 | 4～6号住居跡全景 |
| 写真図版 4 | 1・3号竪穴状遺構、1号祭祀遺構全景 |
| 写真図版 5 | 1～11号土坑全景 |
| 写真図版 6 | 12～21号土坑全景 |
| 写真図版 7 | 22～27号土坑、塚全景 |
| 写真図版 8 | 住居跡出土遺物 |
| 写真図版 9 | 遺構出土遺物 |
| 写真図版 10 | 遺構外出土遺物、調査参加者 |



第1図 御岳田遺跡・周辺遺跡位置図

はじめに

敷島町大下条地区は、県都甲府市に隣接する本町の中でも平坦地を形成し、尚且つ広範囲に耕作地が残る唯一の場所である。このため近年土地開発が著しく増加をしている地域でもある。1994年に行われた遺跡詳細分布調査の結果をみると遺跡包蔵地の約30%がこの大下条地区に集中している。このため発掘件数も必然的に増大し、また、新たな遺跡の発見にもつながっている。

今回調査された御岳山遺跡もこれまで知られていなかった遺跡の一つである。古墳時代前・中期住居跡3軒、平安時代中期から後期の住居跡3軒の他、古墳時代前期の祭祀跡なども発見されており、これまで空白であった甲府盆地北西部における当該期の歴史環境に新たな資料を齎す結果となった。

調査面積は約1,500m²、標高289mを測る。

第1章 遺跡周辺の環境

1. 遺跡の立地と地理的環境

遺跡の所在する敷島町は、甲府盆地の北西端部に位置し、甲府市の西方に隣接する。町域は南北約15km、東西約4kmで、南北に細長い帯状を呈した町である。町の北部は山梨百名山にも選定されている太刀岡山や茅ヶ岳などの山々が聳え立つ山岳地帯であり、南部は奥秩父山系金峰山に源を持つ荒川によって形成された扇状地城となっている。山岳地帯と扇状地城の境目、ちょうど扇頂部には黒富士火山によって形成された台地が伸びている。町域の北部約8割が山間地域、南部の2割が扇状地となっている。この扇状地上には市街地が広がり、また、遺跡包蔵地の8割を占める地域ともなっている。

御岳山遺跡は、敷島、双葉両町に跨る道尾山より源を発する貞川の左岸に位置し、貞川によって形成された自然堤防上に営まれた遺跡である。御岳山遺跡南方には弥生時代後期の集落遺跡として知られる金の尾遺跡があり、自然堤防（尾根）上にはその地形を利用して多くの遺跡が存在するものと考えられる。

2. 遺跡周辺の歴史的環境

敷島町が属する中巨摩郡は、中央に大河、富士川が南流し扇状地を形成している。このため郡下の殆どの町村は河川氾濫による土砂堆積が顕著にみられ、特に中巨摩郡東部では西から延びる笛吹川の影響もあり、遺跡数は極僅かである。このような環境にあって、敷島町は町域西側に黒富士、茅ヶ岳火山によって形成された通称赤坂台地が町を覆うように伸びているため、富士川の影響はまったくみられず、绳文時代より比較的安定した状況にあったようである。しかし、町域東側を南流

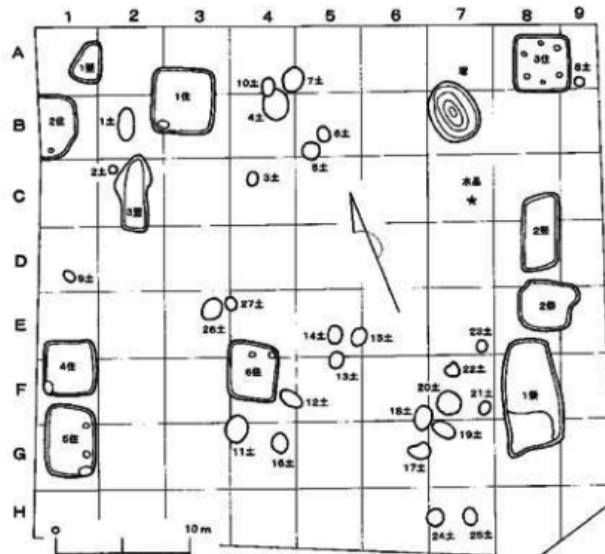
する荒川の氾濫跡や旧河道は所々に看取され、特に平安時代末期から中世初頭にかけて町域東側において比較的大規模な水害を受けていることが最近の発掘調査で明らかとなってきた。

遺跡南方約500mには、弥生時代を中心とする金の尾遺跡が所在する。縄文時代前期末の住居をはじめ中、後期、弥生時代後期、古墳時代前期の生活を示す遺構が明らかになってきている。特に近年の調査で弥生時代の住居跡群、方形周溝墓群、そして環濠跡が見つかっており、弥生研究に大きな資料を提示している。

遺跡東方約500mに所在するのが松ノ尾遺跡である。平安時代後期を中心とする遺跡で、荒川の氾濫跡や平安後期の金銅製阿弥陀如来坐像2体などが出土している。布目瓦も出土していることから政治的にも重要な地域であった可能性が高い。

遺跡西方約1.5kmにある台地を中心に古墳時代後期に築造された古墳群がある。一般的に赤坂台古墳群と呼ばれ、甲府盆地における古墳時代後期の動向を探る一つの資料群をなしている。

牧島町では戦後まもない時期には4~5基の古墳が確認されているが、現在では2基を残すだけとなっている。松ノ尾遺跡からは、荒川の水害によって堆積したと考えられる遺物包含層中から勾玉、耳環、ガラス玉、切子玉、白玉、鉄製刀子など副葬品色が濃い遺物が出土していることから古墳時代には荒川沿岸にも多くの古墳が築造されていたと考えられよう。



第2図 御岳田遺跡遺構配置平面図

第2章 遺構と遺物

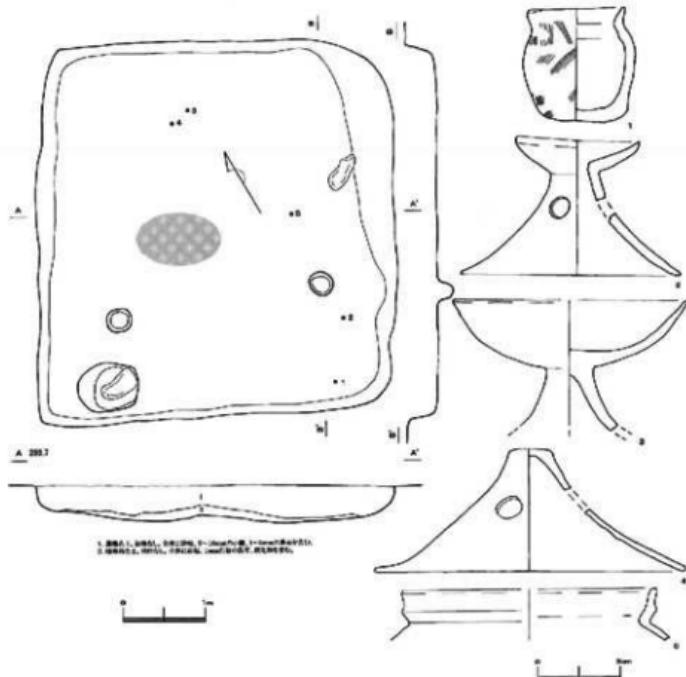
1. 住居跡と遺物

御岳田遺跡では、6軒の住居が調査された。内訳は、古墳時代3軒、平安時代3軒である。古墳時代の住居は前期2軒、中期1軒、平安時代は10世紀後半のものが1軒、11世紀末から12世紀前半にかけてのものが2軒である。

● 1号住居跡（第3図、図版2）

A、B – 2～3グリットに跨がって位置する。規模は南北4.6m、東西4.4m、壁高は四方とも35cmを測り、方形を呈す。柱穴は南東、南西コーナーに各1箇所確認され、直径はともに30cm、深さ20cmである。

住居中央部分に東西90cm、南北50cmの範囲で楕円形状に焼土が深さ7cmにわたって確認された。炉跡と思われる。この炉跡を中心に小型手づくり土器などを含む多数の土器片が出土した。



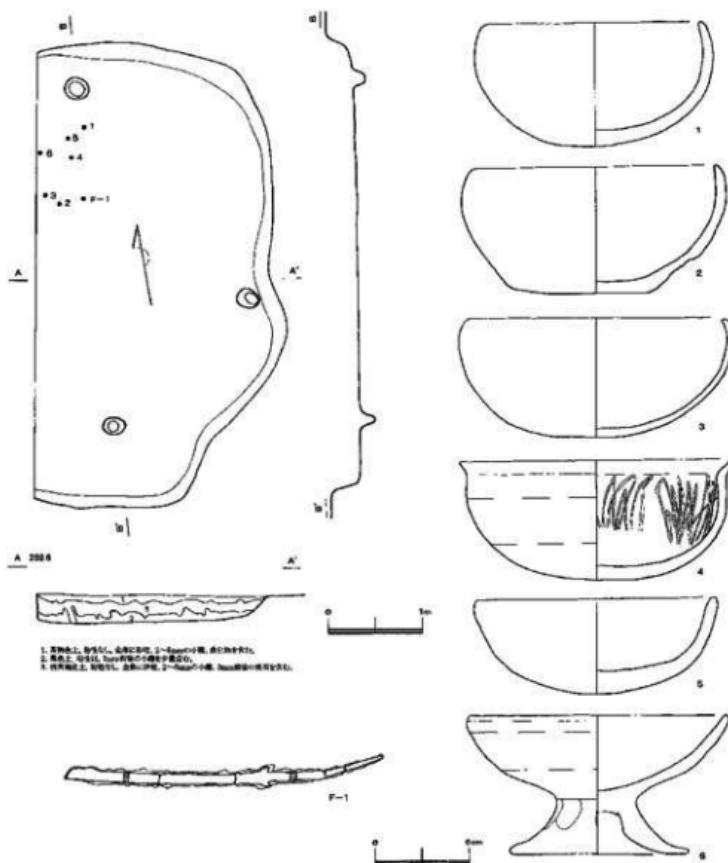
第3図 1号住居跡・出土遺物

● 2号住居跡（第4図、図版2）

B-1グリットに位置する。遺構の西側半分が調査区外になるため本住居の北、南壁の一部と西壁は確認できなかった。

規模は南北5m、東西は調査可能範囲で2.5m、壁高は四方とも平均35cmを測り、方形を呈す。柱穴は北壁のはば中央と推測される付近、東壁中央付近、南東コーナーの合計3箇所で確認され、いずれも直徑25cm、深さ15cmを測る。

遺物は、遺構中心付近から北壁にかけてまとまって出土する。



第4図 2号住居跡・出土遺物

● 3号住居跡（第5・6図、図版2）

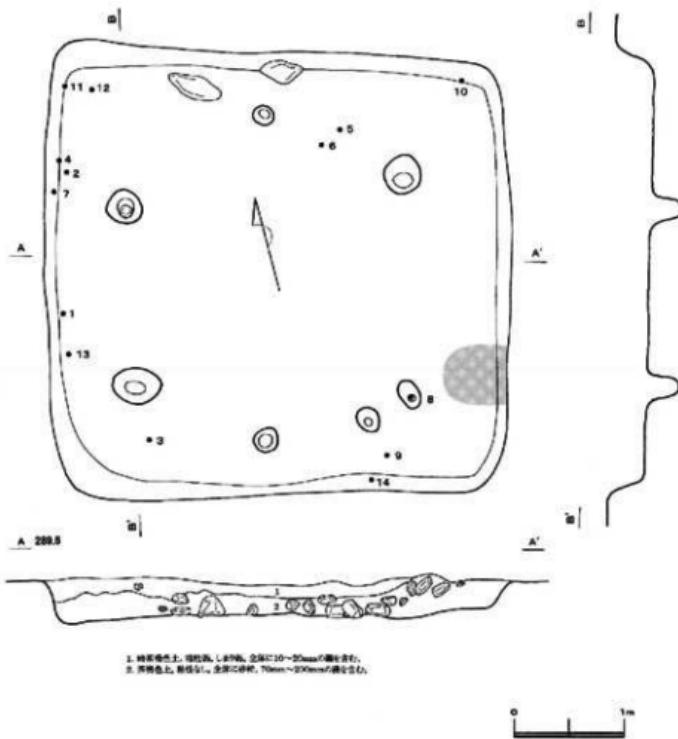
A-8グリットに位置する。規模は南北4.1m、東西4.3m、壁高は西壁45cm、南、北壁35cm、東壁25cmを測り、方形を呈す。

柱穴は直径35cm、深さ20cmを測るものが北東、北西、南西コーナーに各1箇所、直径25cm、深さ15cmを測るものが北壁、南壁中央付近に各1箇所、同じく直径25cmを測る穴が南東コーナーに2箇所確認された。

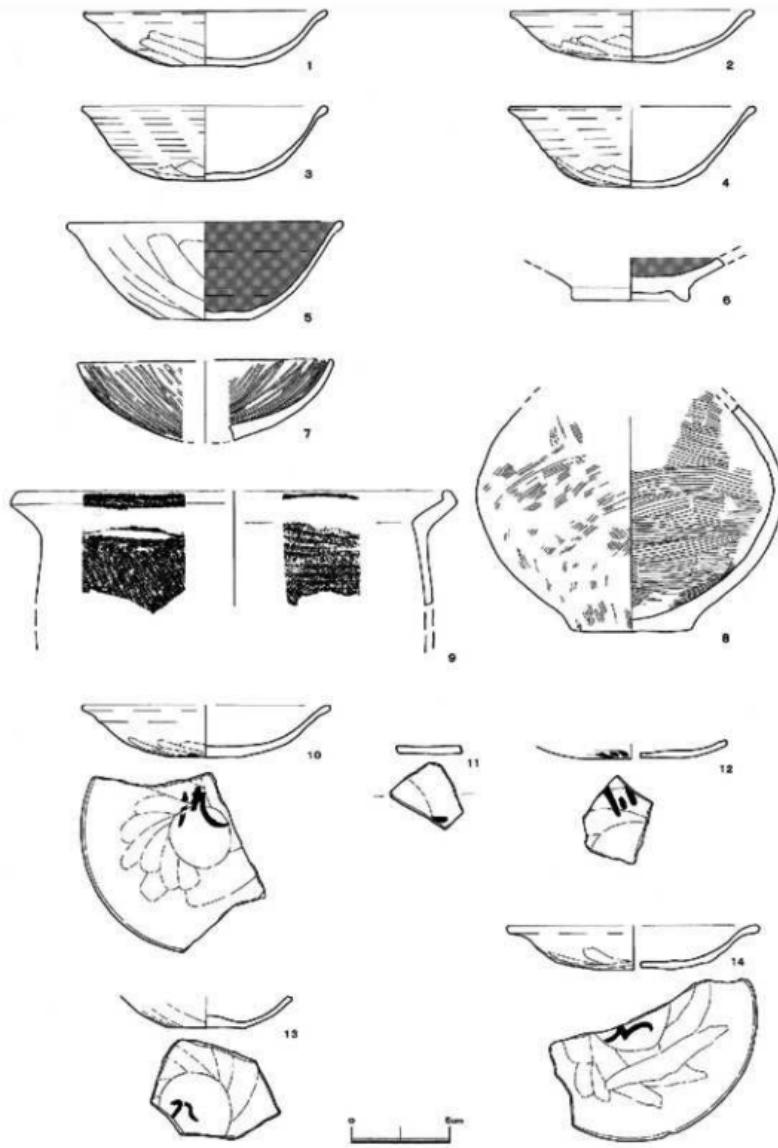
また、東壁南側に幅65cm、奥行き35cmの範囲で焼土が全面に確認され、その周辺からも3~10mm程度の焼土ブロックが認められたことなどからカマド施設の可能性が考えられる。

堆積土では、第2層中に花崗岩質の長径20cm前後の礫が全面に認められ、砂粒も多いことなどから水害が発生された可能性が高いと考えられる。

遺物は全体から出土するが、西、南壁付近に多く認められる。



第5図 3号住居跡



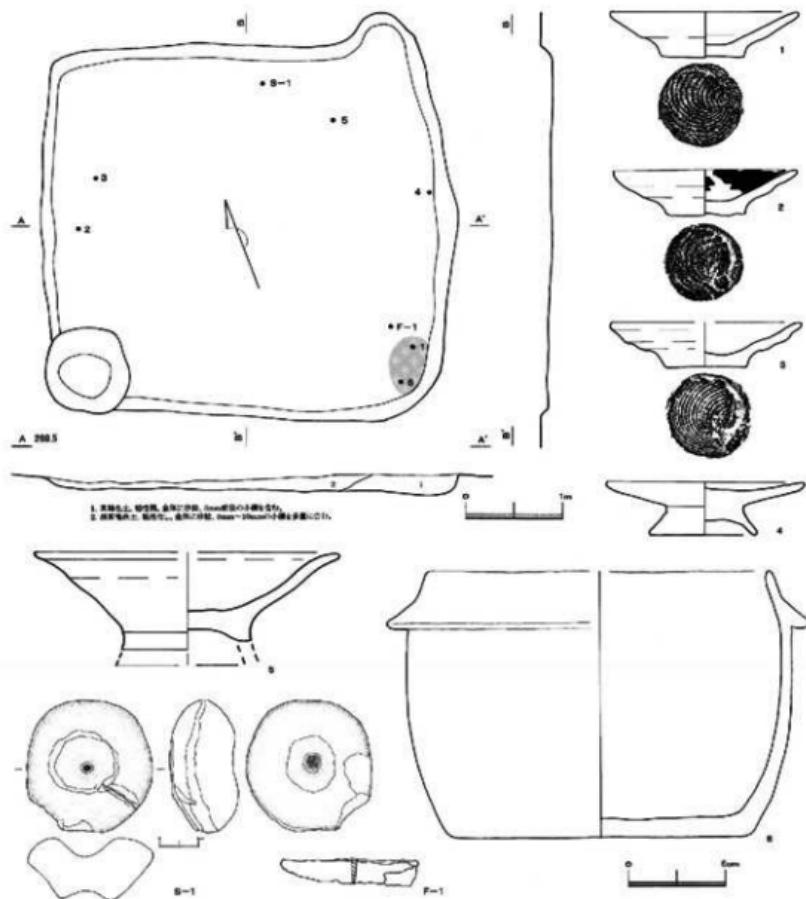
第6図 3号住居跡出土遺物

● 4号住居跡（第7図、図版3）

E、F-1グリットに位置する。規模は南北3.85m、東西4.25m、北、南、西壁は高さ10cm、東壁は20cmを測り、形状は方形を呈す。

南西コーナーに直径90cmの円形を呈した浅い掘り込みが看取された。また、東南コーナーの東壁付近に直径40cmの範囲で円形状に焼土が確認された。カマドの可能性が考えられよう。

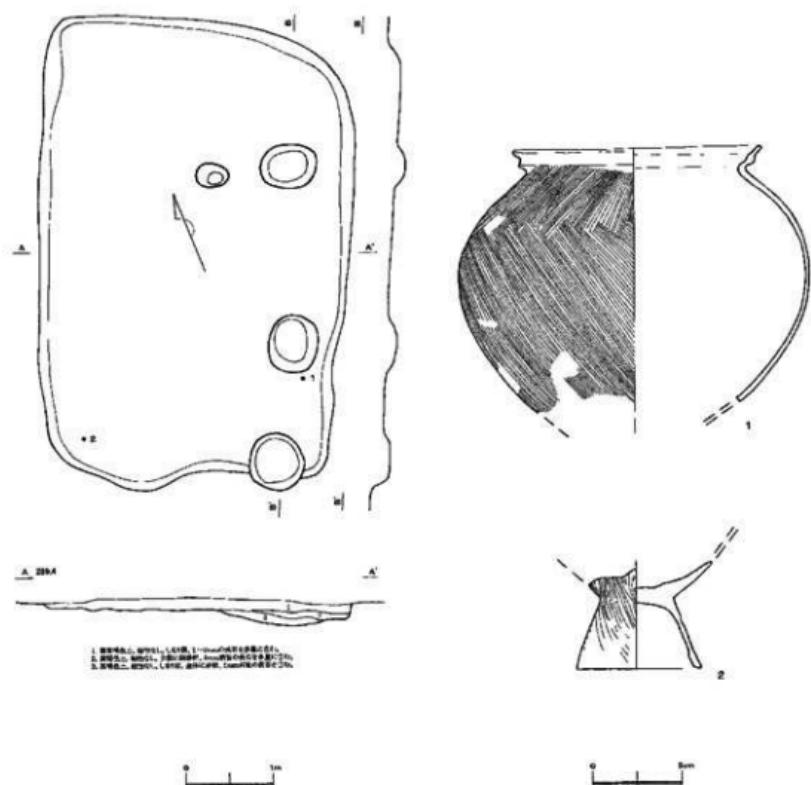
堆積層第2層中に、直径20cm前後の花崗岩質の礫が混入しており、3号住居と様相が類似する。



第7図 4号住居跡・出土遺物

● 5号住居跡（第8図、図版3）

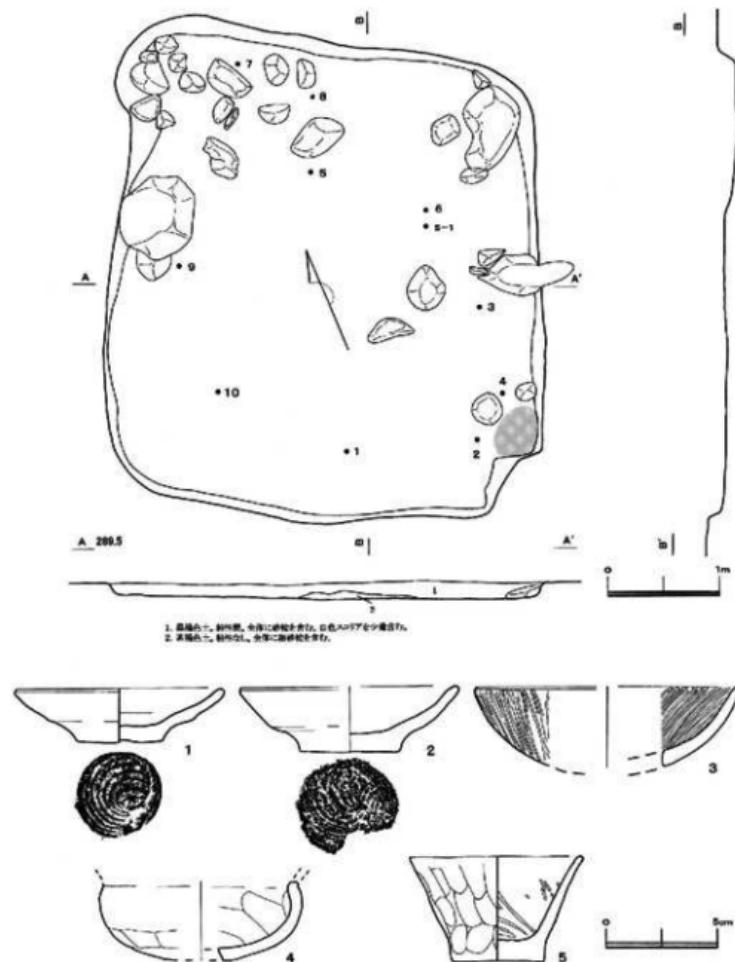
F、G-1グリットに位置し、南北5.4m、東西3.6m、の長方形を呈す。北、南、東壁において、幅60cm、深さ10cmほどの浅く掘りこまれたような箇所が所々に認められた。壁は西側において10cm、北、南、東壁においても10~20cmを測る。また、東壁に沿うかたちで、直径60cm、深さ約15cmの円形状の穴が3カ所、中央北より直径35cmの円形状ピットが1カ所認められた。



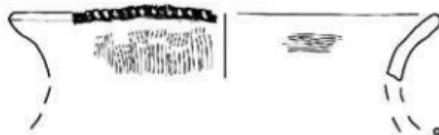
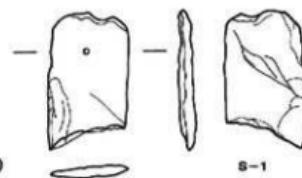
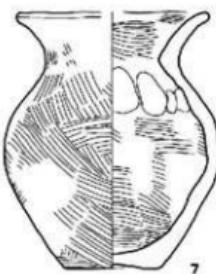
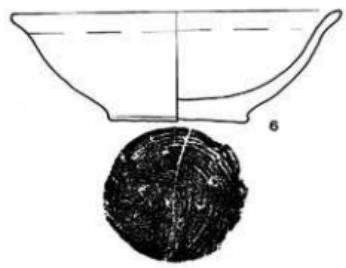
第8図 5号住居跡・出土遺物

● 6号住居跡（第9図、図版3）

E、F-4グリットに位置し、南北4.35m、東西4mの方形を呈す。壁は四方とも高さ約15cmを測る。東壁南東コーナー付近に直径30cmの範囲で円形状に焼土が確認された。また、住居中央北側全体に直径20~70cmの花崗岩質の礫が混入しており、砂粒も多く堆積する。



第9図 6号住居跡・出土遺物（1）



0 5mm

第10図 6号住居跡・出土遺物(2)

【第1表】 1号住居跡出土遺物観察表

| No | 器種 | 器形 | 計測値 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 器形・技法の特徴 |
|----|-----|------------|--|---------------------------|-------------------|-----|--|
| 1 | 土師器 | ミニチュア 壺 | 高さ 口径 底径 7.1 cm 4.9 cm 4.9 cm | キメ細かい 砂粒を多く含む キメ細かい | 明茶褐色 良 | やや良 | 内面に辺縁傾方向のハケ目。外面部傾斜方向のハケ目。内面部指捺痕有り。 |
| 2 | 土師器 | 器 台 | 高さ 口径 底径 8.4 cm 13.6 cm 13.6 cm | 砂粒を多く含む キメ細かい | 明茶褐色 良 | 良 | 器頂に直徑1.3cmの円孔が3ヶ所外側から内方に向かって空たれています。内面部指捺痕有り。器底部中央に直径1.1cmの穴孔有り。 |
| 3 | 土師器 | 高 壺 | 口径 14.6 cm | キメ細かい | 明茶褐色 良 | 良 | 外面部部、内面部部へラ磨き。 |
| 4 | 土師器 | 高 壺 | 底径 19.2 cm | キメ細かい | 内面 黒褐色 外面 明茶褐色 | 良 | 脚部に直径1.7cmの円孔が3ヶ所外側から内方に向かって空たれています。外面部指捺痕有り。 |
| 5 | 土師器 | S字 瓦 | 口径 15.6 cm | 金雲母を含む | 赤褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外面部指捺痕有り。 |

2号住居跡出土遺物観察表

| No | 器種 | 器形 | 計測値 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|-----|-----|---|------------------|------------------------|----|--|
| 1 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 6.7 cm 11.5 cm 5.5 cm | キメ細かい | 明茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外面部部へラ磨き。 |
| 2 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 6.9 cm 13.5 cm 5.5 cm | 辰巳 石英を 含む | 内面 淡茶色 外面 暗茶色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外面部部へラ磨き。 脚部へラ磨き。 |
| 3 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 6.5 cm 13.5 cm 3.5 cm | 砂粒を含み キメ細かく緻密 | 内面 茶褐色 外面 黑褐色 良好 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 内面部部傾斜方向のハラ磨き。 外面部部傾斜方向のハラ磨き。 |
| 4 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 6.5 cm 14.7 cm 4.7 cm | キメ細かい | 茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 内・外面部部へラ磨き。 |
| 5 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 5.2 cm 12.8 cm 6.8 cm | キメ細かく緻密 | 赤褐色 良好 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 内面部部傾斜方向のハラ磨き。 外面部部傾斜方向のハラ磨き。 |
| 6 | 土師器 | 高 壺 | 高さ 口径 底径 7.5 cm 13.8 cm 9.6 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 良好 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 内・外面部部傾斜方向のハラ磨き。 脚部に指捺痕有り。 |
| F-1 | 鉄製品 | 刀 手 | 長径 17.3 cm | | | | |

3号住居跡出土遺物観察表

| No | 器種 | 器形 | 計測値 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 器形・技法の特徴 |
|----|-----|------|---|--------------------|-------------------------|----|--|
| 1 | 土師器 | 皿 | 高さ 口径 底径 2.8 cm 12.4 cm 3.6 cm | 赤色粒子を含み キメ細かく緻密 | 明茶褐色 良好 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部部下半へラ削り。外面部部へラ削り及び擦痕有り。ロクロ有開口。 |
| 2 | 土師器 | 皿 | 高さ 口径 底径 2.7 cm 12.4 cm 4.0 cm | 赤色粒子を含む | 茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部部下半へラ削り。外面部部へラ削り。内面部付近に凹凸有り。内面部スリット有り。ロクロ有開口。 |
| 3 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 3.9 cm 12.4 cm 4.2 cm | 赤色粒子を含む | 明茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部部下半へラ削り。外面部部へラ削り。内面部付近に凹凸有り。内面部スリット有り。ロクロ有開口。 |
| 4 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 4.2 cm 12.5 cm 4.7 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部付近に凹凸有り。内面部付近に凹凸有り。内面部部へラ削り。 |
| 5 | 土師器 | 壺 | 高さ 口径 底径 5.1 cm 14.0 cm 5.1 cm | キメ細かく緻密 | 内面 黒褐色 外面 暗茶褐色 良好 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部部及び体部へラ削り。内黒土器。ロクロ有開口。 |
| 6 | 土師器 | 高台付皿 | 高さ 5.9 cm | 赤色粒子を含む | 内面 黒褐色 外面 淡茶色 良 | 良 | 外面部横ナデ仕上げ。内黒土器。 |
| 7 | 土師器 | 高 壺 | 口径 13.0 cm | 砂粒を含む | 茶褐色 良 | 良 | 内・外面部部に放射状のハラ磨きが施される。 |
| 8 | 土師器 | 壺 | 高さ 6.3 cm | 砂粒を含む | 茶褐色 良 | 良 | 内面部横ナデ仕上げ。外面部部斜め方向のハケ目。 |
| 9 | 土師器 | 壺 | 口径 22.0 cm | 金雲母を多く 含む | 茶褐色 良 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。外面部部傾斜方向のハラ磨き。 |
| 10 | 土師器 | 皿 | 高さ 口径 底径 2.7 cm 12.6 cm 3.6 cm | キメ細かく緻密 | 明茶褐色 良 | 良 | 外面部部に「八」の墨書き有り。口辺部横ナデ仕上げ。外面部部及び体部下半へラ削り。ロクロ有開口。 |
| 11 | 土師器 | | | キメ細かい | 明茶褐色 良 | 良 | 外面部部に「八」の墨書き有り。 |
| 12 | 土師器 | | | キメ細かい | 茶褐色 良 | 良 | 外面部部下半に「八」の墨書き有り。 |
| 13 | 土師器 | 壺 | 底径 3.8 cm | 赤色粒子を含む | 淡茶色 良 | 良 | 外面部部に「八」の墨書き有り。外面部部斜め方向、ハラ磨き。 |
| 14 | 土師器 | 皿 | 高さ 口径 底径 2.3 cm 12.8 cm 3.8 cm | 赤色粒子を含み キメ細かく緻密 | 茶褐色 良好 | 良好 | 外面部部に「八」の墨書き有り。口辺部横ナデ仕上げ。外面部部及び体部下半へラ削り。 |

【第2表】 4号住居跡出土遺物観察表

| No | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 胎 土 | 色 調 | 焼 成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|--------|------|--|-----------------|-----|-----|--|
| 1 | 土師質土器上 | 小 盆 | 高さ 2.4 cm 口径 9.6 cm 底径 4.1 cm | 金雲母が多く含む | 茶褐色 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外周全体に焦げ跡。 底部系切痕。ロクロ右回転。 |
| 2 | 土師質土器 | 小 盆 | 高さ 2.4 cm 口径 9.6 cm 底径 4.1 cm | 金雲母が多く含む | 茶褐色 | 良 | 内面に擦付痕。 底部系切痕。 ロクロ右回転。 |
| 3 | 土師質器上 | 小 盆 | 高さ 2.35 cm 口径 9.8 cm 底径 4.1 cm | 金雲母が多く含む | 茶褐色 | 良 | 底部系切痕。 |
| 4 | 土師質土器 | 高台付皿 | 高さ 2.75 cm 口径 10.3 cm 底径 5.6 cm | 砂粒、金雲母を含み、キメ細かい | 淡茶色 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 ロクロ右回転。 |
| 5 | 土師質土器 | 高台付环 | 高さ 15.8 cm | 砂粒、金雲母を含む | 茶褐色 | 良 | ロクロ右回転。 |
| 6 | 土師質土器 | 羽 盖 | 高さ 13.9 cm 口径 17.6 cm 底径 16.2 cm | 砂粒、金雲母を含む | 茶褐色 | 良 | |
| S-1 | 石製品 | 四 石 | 底径 16.5 cm 高さ 8.7 cm | 石材 安山岩 | | | |
| F-1 | 鉄製品 | 刀 子 | 厚さ 7.1 cm 幅 1.2 cm | | | | |

5号住居跡出土遺物観察表

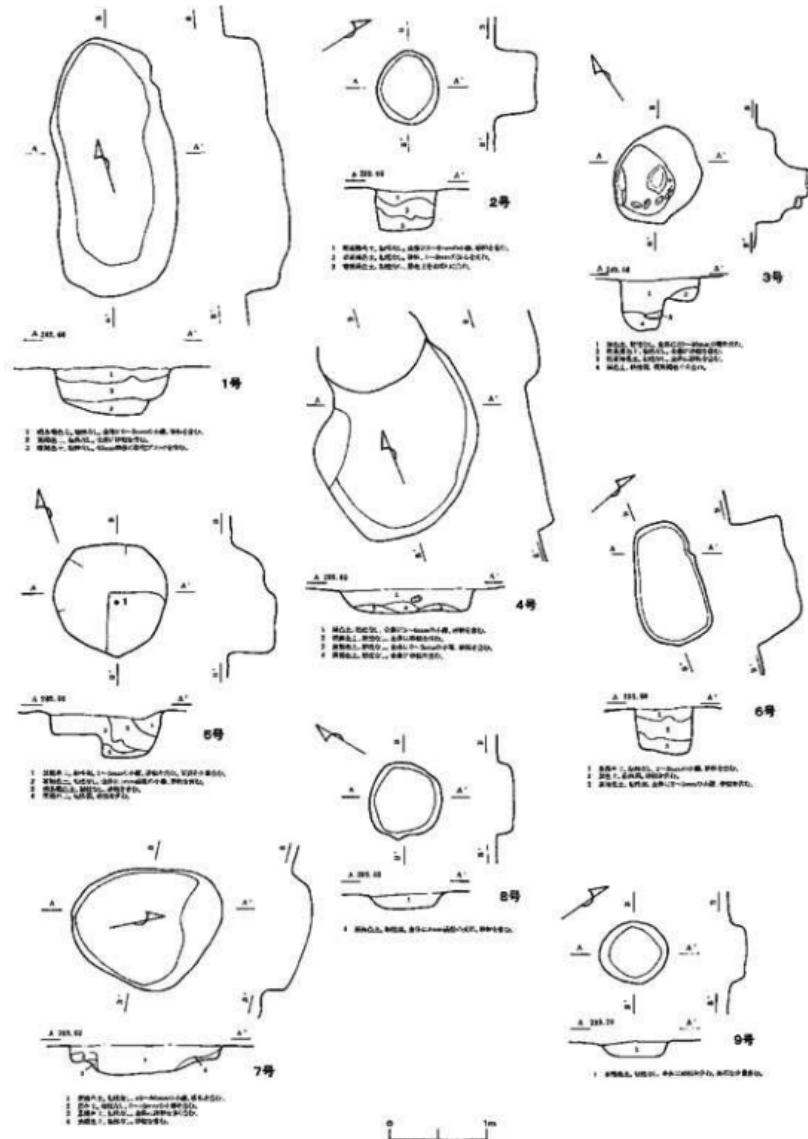
| No | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 胎 土 | 色 調 | 焼 成 | 器形・技法の特徴 |
|----|-----|------------|------------|--------|-----|-----|--|
| 1 | 土師器 | S字状 口 線 | 口径 14.1 cm | 砂粒を含む | 茶褐色 | 良 | 外周口辺部から頸部にかけて斜め方向のハケ目。外周頸部から頸部にかけて縱力向のハケ目。 |
| 2 | 土師器 | 臺 | 底径 7.1 cm | 金雲母を含む | 茶褐色 | 良 | 外周縱方向のハケ目。 |

6号住居跡出土遺物観察表

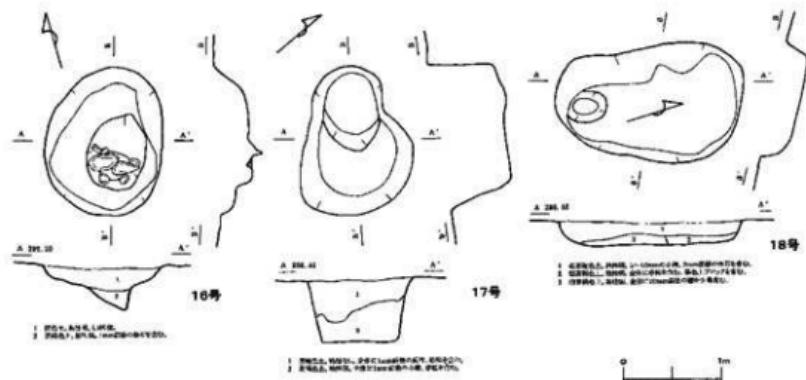
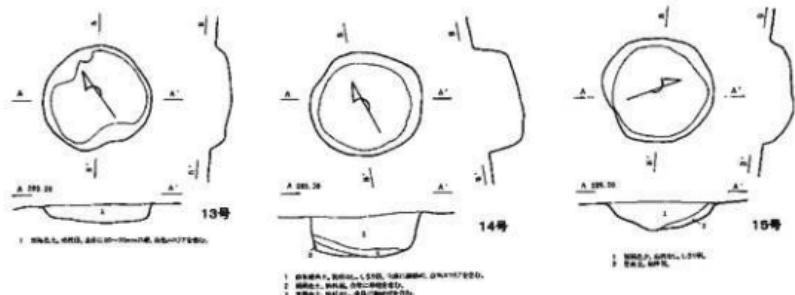
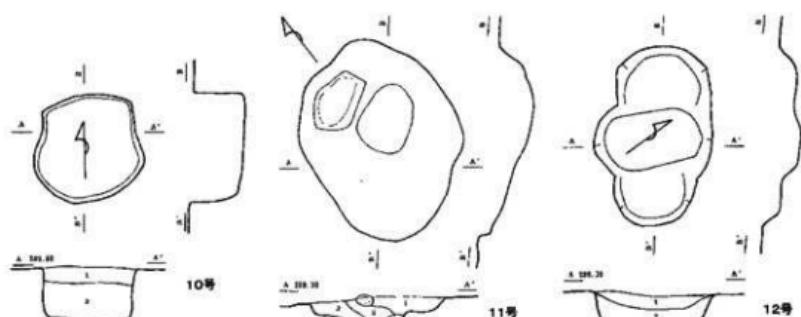
| No | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 胎 土 | 色 調 | 焼 成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|-------|-----------------|---------------------------------------|----------------|------------------|-----|---|
| 1 | 土師質土器 | 小 盆 | 高さ 2.5 cm 口径 9.55 cm 底径 4.0 cm | 金雲母が多く含み、キメ細かい | 茶褐色 | 良好 | 口辺部横ナデ仕上げ。 底部系切痕。 ロクロ右回転。 |
| 2 | 土師質土器 | 小 盆 | 高さ 2.95cm 口径 9.9 cm 底径 4.5 cm | 金雲母が多く含み、キメ細かい | 黑茶色 | 良好 | 内・外周体部へラ磨き。 底部系切痕。 |
| 3 | 土師器 | | 底径 11.8 cm | 砂粒を含む | 明茶色 | 良 | 内・外周体部へラ磨き。 |
| 4 | 土師器 | | 底径 9.2 cm | 砂粒を含む | 明茶色 | 良 | 外周体部へラ削り後、横ナデ。 内向体部に指痕抜有り。 |
| 5 | 土師器 | 手 振 ね わ 器 | 高さ 4.8 cm 口径 8.05 cm 底径 4.2 cm | 金雲母を含む | 暗灰色 | 良 | 口辺部に注ぎ口と着られる反り有り。 内向体部へラ磨き。 外周体部に指痕抜有り。 |
| 6 | 土師質土器 | 环 | 高さ 4.8 cm 口径 14.2 cm 底径 5.9 cm | 金雲母を多く含む | 黑茶色 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 内周体部へラ磨き。 底部系切痕、ナデ仕上げ。 |
| 7 | 土師器 | 小 壶 盆 | 高さ 11.15 cm 口径 8.0 cm 底径 2.1 cm | 金雲母、石英を含む | 茶褐色 | 良 | 内周口辺部横方向のハケ目。 外周全体に不規則なハケ目。 頸部に指痕痕有り。 |
| 8 | 土師器 | | 底径 4.1 cm | キメ細かい | 内面 茶褐色 外面 明茶色 | 良 | 内面ナデ仕上げ。 外周底部へラ磨き。 |
| 9 | 土師器 | 臺 | 底径 18.2 cm | 金雲母を含む | 黑茶色 | 良 | 口辺部にへラ状工具によるキサミを有す。 内周口辺部横方向のハケ目。 外周口辺部縱方向のハケ目。 |
| 10 | 土師器 | 臺 | 底径 32.4 cm | 砂粒を含む | 内向 淡茶色 外面 赤褐色 | 良 | 内面ナデ仕上げ。 |
| S-1 | 石製品 | 石 新 | 高さ 3.4 cm 底径 0.6 cm | 石材 粘板岩 | | | |

【第3表】土坑観察表

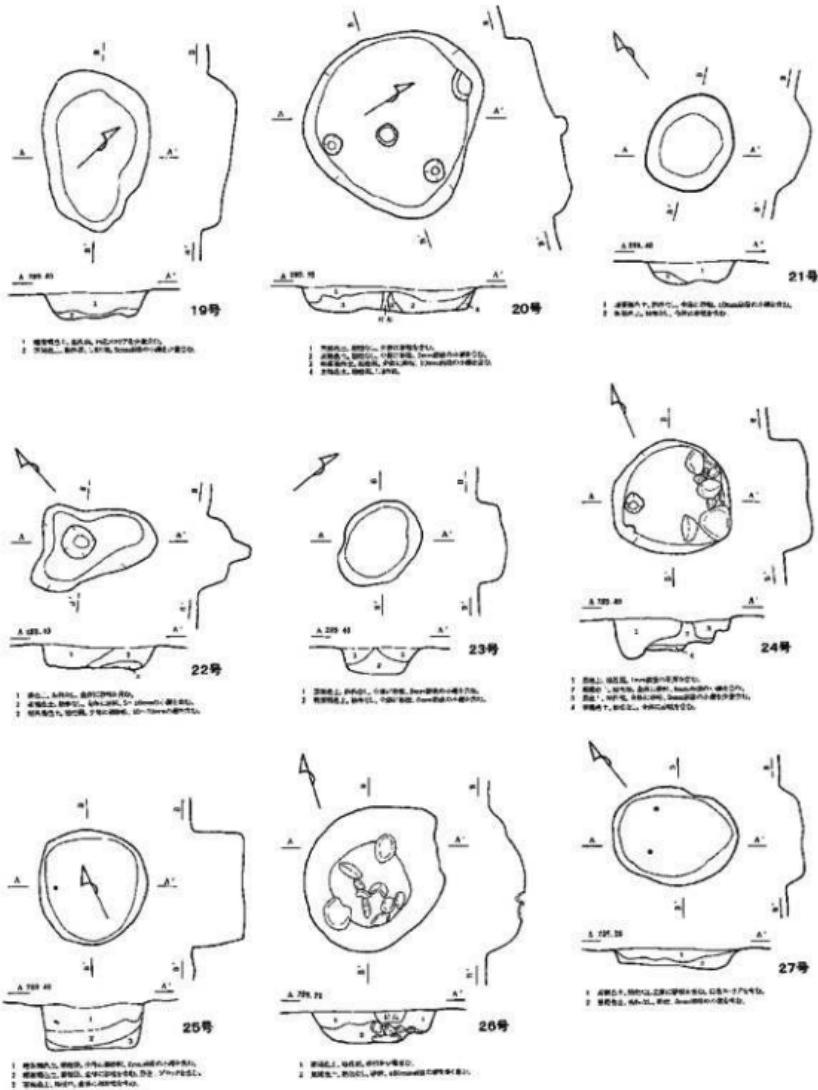
| 土坑No | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | | グリット |
|------|--------|--------|--------|------------|--|------|
| | | | | | | |
| 1 | 260 | 130 | 50 | | | B-2 |
| 2 | 80 | 65 | 45 | | | C-2 |
| 3 | 105 | 85 | 53 | | | C-4 |
| 4 | 175 | 160 | 25 | | | B-4 |
| 5 | 120 | 120 | 50 | ミニチュア土器 | | B-5 |
| 6 | 135 | 70 | 55 | | | B-5 |
| 7 | 165 | 130 | 30 | 坏小片 | | A-4 |
| 8 | 75 | 75 | 15 | 壳小片 | | A-9 |
| 9 | 75 | 67 | 15 | | | D-1 |
| 10 | 140 | 100 | 57 | | | A-4 |
| 11 | 210 | 160 | 40 | | | G-4 |
| 12 | 190 | 125 | 35 | | | F-4 |
| 13 | 115 | 110 | 20 | | | F-5 |
| 14 | 115 | 110 | 40 | 壳小片 | | E-5 |
| 15 | 120 | 110 | 30 | | | E-5 |
| 16 | 160 | 125 | 44 | | | G-4 |
| 17 | 160 | 105 | 80 | | | G-6 |
| 18 | 195 | 130 | 28 | | | F-6 |
| 19 | 165 | 110 | 28 | | | G-7 |
| 20 | 195 | 190 | 37 | 瓶の底部・高坏の脚部 | | F-7 |
| 21 | 103 | 80 | 23 | | | F-7 |
| 22 | 120 | 75 | 50 | | | F-7 |
| 23 | 97 | 77 | 28 | | | E-7 |
| 24 | 120 | 120 | 42 | | | H-7 |
| 25 | 125 | 110 | 55 | 皿 | | H-7 |
| 26 | 165 | 135 | 40 | | | E-3 |
| 27 | 130 | 102 | 20 | 小皿2点 | | E-3 |



第11図 1～9号土坑

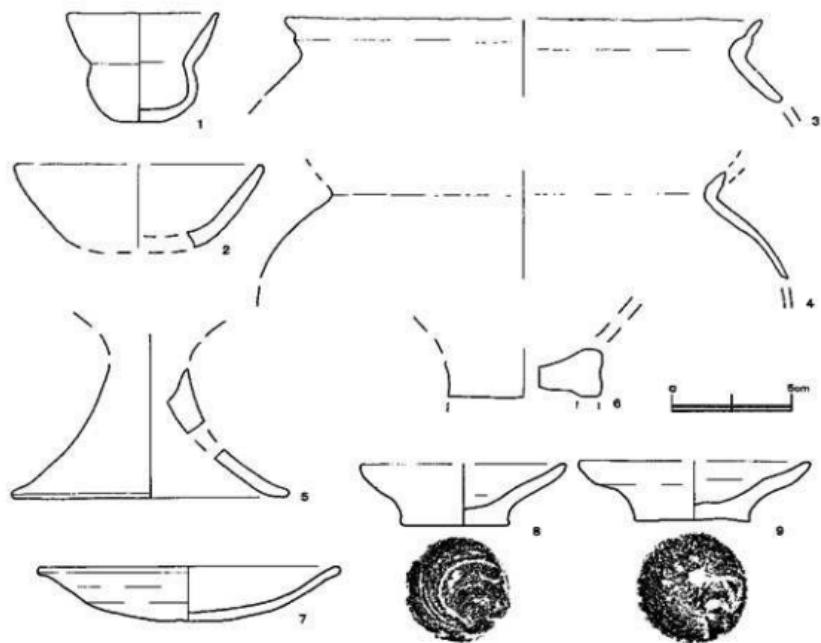


第12図 10~18号土坑



0 1m

第13図 19~27号土坑



第14図 土坑出土遺物

[第4表] 土坑出土遺物観察表

| No. | 器種 | 器形 | 計測値 | 胎上 | 色調 | 焼成 | 器形・技法の特徴 | 土坑番号 |
|-----|-----------|-------------|--------------------------------------|----------------|------|----|--|-------|
| 1 | 土師器 上器 | ミニチュア 上器 | 高さ 4.55cm 口径 6.4 cm 底径 2.0 cm | 金雲母を含む | 暗茶色 | 良 | ミニチュアの壺。 口縁部から頸部にかけて横ナデ仕上げ。 | 5号土坑 |
| 2 | 土師器 | 壺 | 高さ 10.0 cm | キメ細かく 破密 | 茶褐色 | 良 | 口近部横ナデ仕上げ。 | 7号土坑 |
| 3 | 土師器 | S字状 口縫 | 高さ 19.5 cm | キメ粗い | 茶褐色 | 良 | 外向崩頭ハケ目。 | 8号土坑 |
| 4 | 土師器 | 壺 | | 金雲母を少 量含む | 黒茶色 | 良 | 内・外面ナデ仕上げ。 | 14号土坑 |
| 5 | 土師器 | 高 壺 | 底径 11.5 cm | 瓦石、石英 を多く含む | 明茶褐色 | 良 | 脚部に直径1.4cmの円孔が外側から内 側に向かって3ヶ所穿たれている。 底部横ナデ仕上げ。 | 20号土坑 |
| 6 | 土師器 | 壺 | 底径 6.4 cm | 金雲母を含む | 茶褐色 | 良 | 底部中央に直径1.1cmの円孔を有す。 | 20号土坑 |
| 7 | 土師器 | 皿 | 器高 2.3 cm 口径 12.2 cm 底径 3.0 cm | キメ細かく 破密 | 明茶褐色 | 良好 | 口近部横ナデ仕上げ。 外面底面へラ整形。 | 25号土坑 |
| 8 | 土師質 土 | 小 皿 | 器高 2.5 cm 口径 9.4 cm 底径 4.5 cm | 金雲母を多 く含む | 暗茶色 | 良 | 口近部横ナデ仕上げ。 底部系引痕。 ロクロ右回転。 | 27号土坑 |
| 9 | 土師質 土 | 小 皿 | 器高 2.6 cm 口径 9.4 cm 底径 4.5 cm | 金雲母を多 く含む | 灰茶色 | 良 | 口近部横ナデ仕上げ。 底部系引痕。 ロクロ右回転。 | 27号土坑 |

3. 壁穴状遺構

【第5表】 壁穴状遺構観察表（第15～17、図版4）

(単位: m)

| 遺構番号 | 遺構規模 | 深さ | 形状 | グリット | 備考 |
|------|------------------------|---------------|-----|------------|--------------------------|
| 1号 | 南北3、2 東西最大2.6 最小1.7 | 0.4 東側0.08 | 不整形 | A-1 | 遺構北側に直径0.2～0.4mの花崗岩質の礫混入 |
| 2号 | 南北4、45 東西2、2 | 0.25 | 長方形 | C-8 D-8 | |
| 3号 | 南北5、7 東西2、0 | 0.45 | 長方形 | C-2 | |

● 1号祭祀遺構（第18図、図版4）

F-8、G-8グリットに位置する。規模は、南北8.3m、東西4.75mの長方形を呈す。南壁から北へ3mのラインまでは深さ17cm、3mラインから北壁までが深さ50cmとなる。このため遺構南側が東西約5m、南北3mの規模でテラス状を形成する。

テラスより北側からは絶えず水が湧き出していた。遺跡内において水が湧く場所は本遺構しかなく、また、テラス北側の湧水落ち込み部分からは比較的大型の甕やS字甕などが一列に並び西側に倒れた状態で出土していることなどから水に関係する祭祀遺構と考えられる。

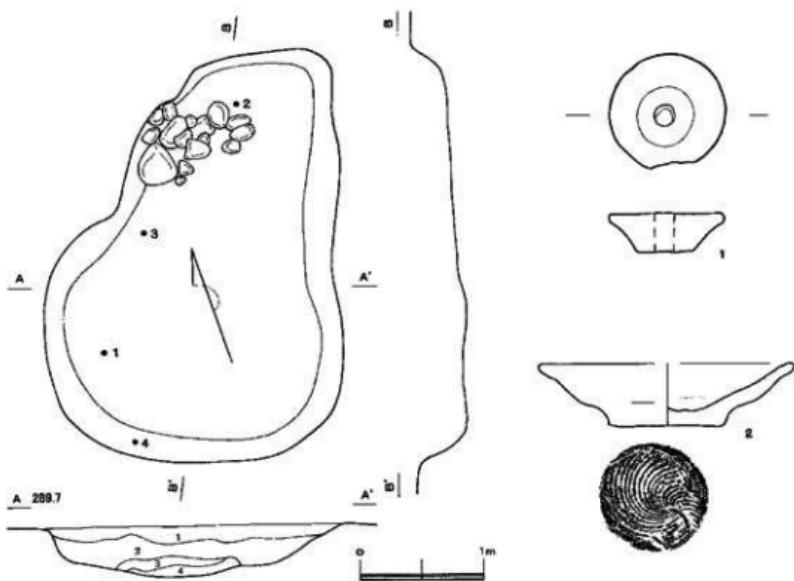
● 2号祭祀遺構（第21図）

E-8グリットに位置し、規模は南北3.8m、東西3.95mの方形状を呈す。深さは南壁が42cmとやや深いほかは、北、東、西とも20～27cmを測る。遺構中央やや西側及び北壁西より直徑60cmの範囲で焼土が確認された。

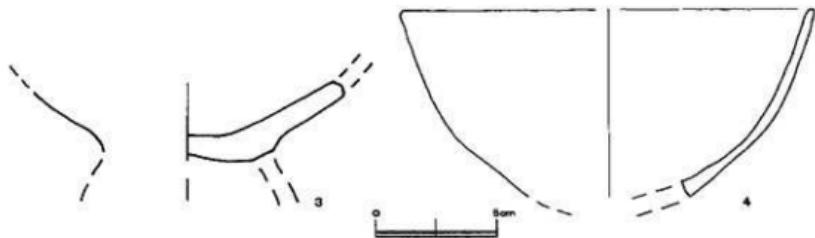
本遺構も1号祭祀遺構同様湧水が認められる。また、全体から遺物が出土しているが、その年代は古墳時代前期の甕や10世紀中葉の壺、12世紀初頭の小皿といった不連続で時代の統一性を欠くものである。

●塚（第23図、図版7）

B-7グリットに位置し、南北軸4.85m、東西軸3.95mの楕円形状を呈す。塚底部の外郭には直徑60cm前後の花崗岩質の礫が散かれ、その上に直徑10～20cmの花崗岩質の礫が71.7cmの高さまで積丘状に積まれる。礫の間からは12世紀初頭の土師質壺や高壺の脚部などが出土しているが、石郭などの施設は無くただ礫を積み上げたという状況であった。



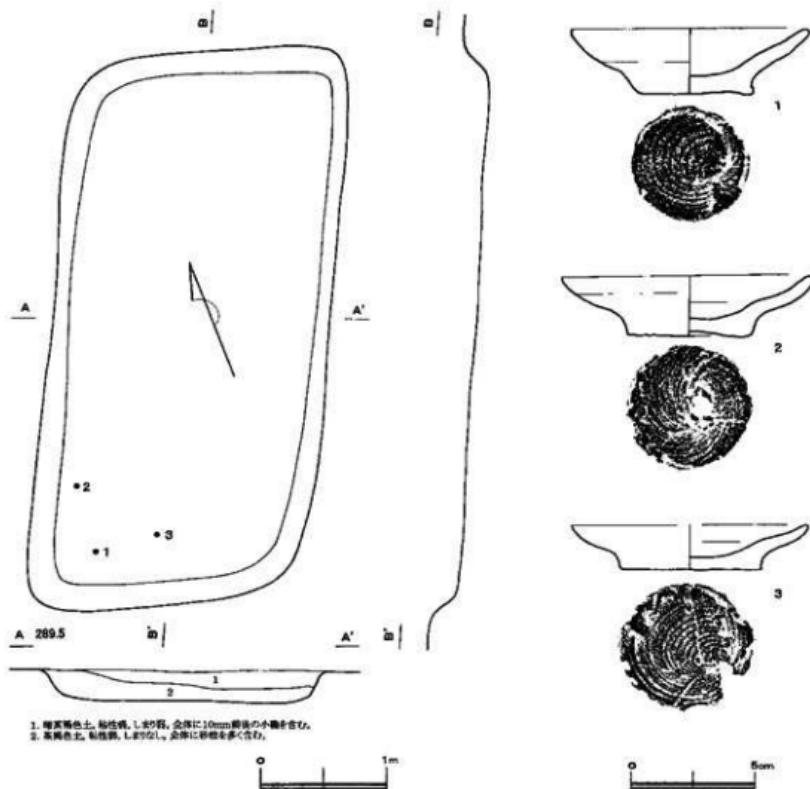
1. 明茶褐色土。粘性なし。全体に砂粒、5~8mmの小礫を含む。
2. 暗茶褐色土。粘性弱。全体に砂粒、5~10mmの小礫、3mm前後の英石を含む。
3. 暗茶褐色土。粘性なし。全体に砂粒を含む。
4. 黄褐色土。粘性なし。砂粒、英石を多く含む。



第15図 1号竪穴状造構・出土遺物

【第6表】 1号竪穴状造構出土遺物観察表

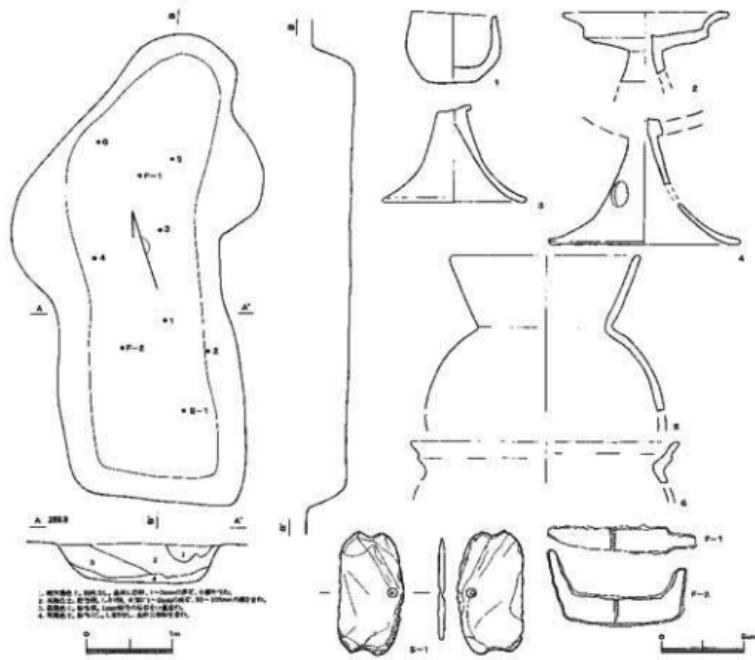
| No | 器種 | 器形 | 計測値 | 動土 | 色調 | 焼成 | 器形・技法の特徴 |
|----|-----------|-----|---|-------------------|------------------------|----|--------------------------------------|
| 1 | 土製品 | 筋縫車 | 長軸 4.75cm 幅 4.5 cm 厚さ 1.6 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 中心に直徑0.8cmの円孔を持つ。 全体にヘラ磨きが施されている。 |
| 2 | 土師質 土器 | 小皿 | 口直徑 2.6 cm 底直徑 10.0 cm 底深 1.6 cm | 金雲はを含み キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 底部系切痕。 ロクロ右回転。 |
| 3 | 土師器 | 台付壺 | 口径 3.2 cm | キメ細かく 長石、石英を含む | 内面 淡茶色 外面 茶褐色 | 良 | 内面ナデ仕上げ。 |
| 4 | 土師器 | 高壺 | 鉢径 16.6 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 |



第16図 2号竪穴状遺構・出土遺物

【第7表】 2号竪穴状遺構出土遺物観察表

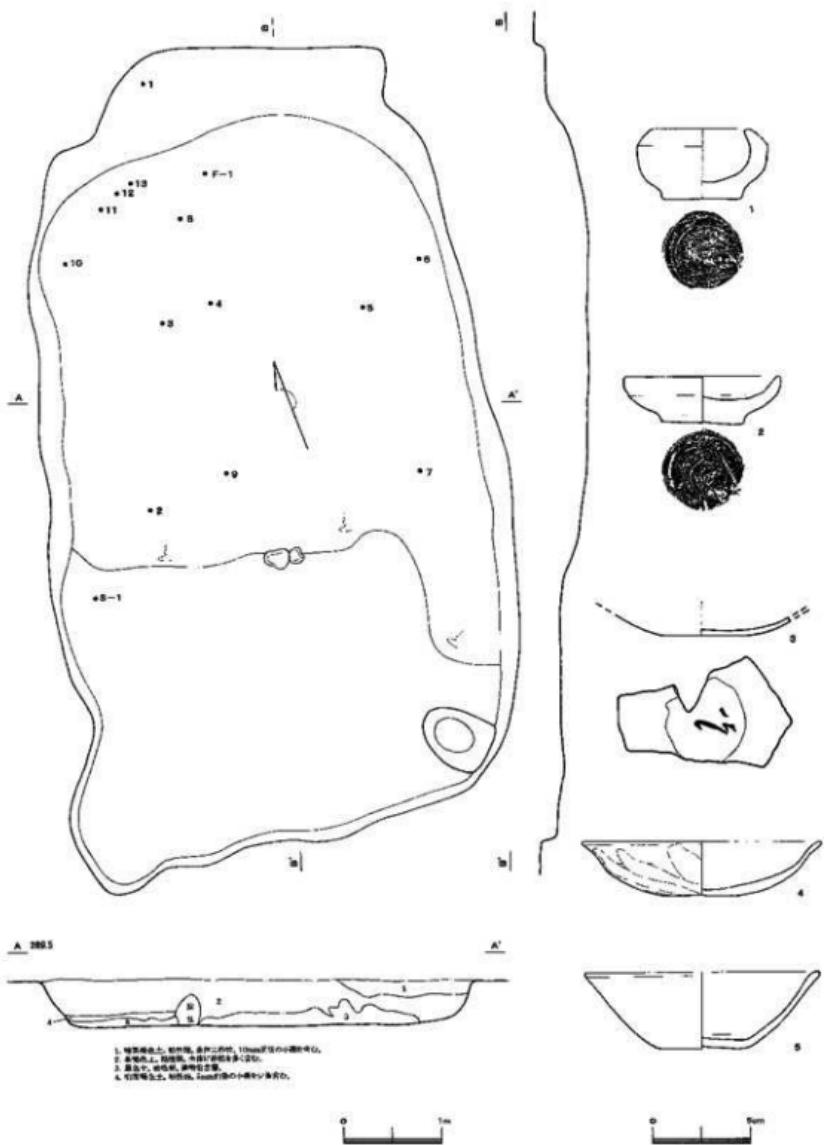
| No | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 胎 土 | 色 滴 | 焼 成 | 器形・技法の特徴 |
|----|-----------|-----|--|----------|------|-----|-------------------|
| 1 | 土師質 土器 | 小 盆 | 器高 2.65cm 口徑 9.5 cm 底徑 4.4 cm | 全雲母を多く含む | 暗茶褐色 | 良好 | 底部斜切痕。 ロクロ右回転。 |
| 2 | 土師質 土器 | 小 盆 | 器高 2.5 cm 口徑 6.7 cm 底徑 5.0 cm | 全雲母を多く含む | 暗茶褐色 | 良 | 底部斜切痕。 ロクロ右回転。 |
| 3 | 土師質 土器 | 小 盆 | 器高 1.8 cm 口徑 9.1 cm 底徑 5.1 cm | 全雲母を多く含む | 暗茶褐色 | 良 | 底部斜切痕。 |



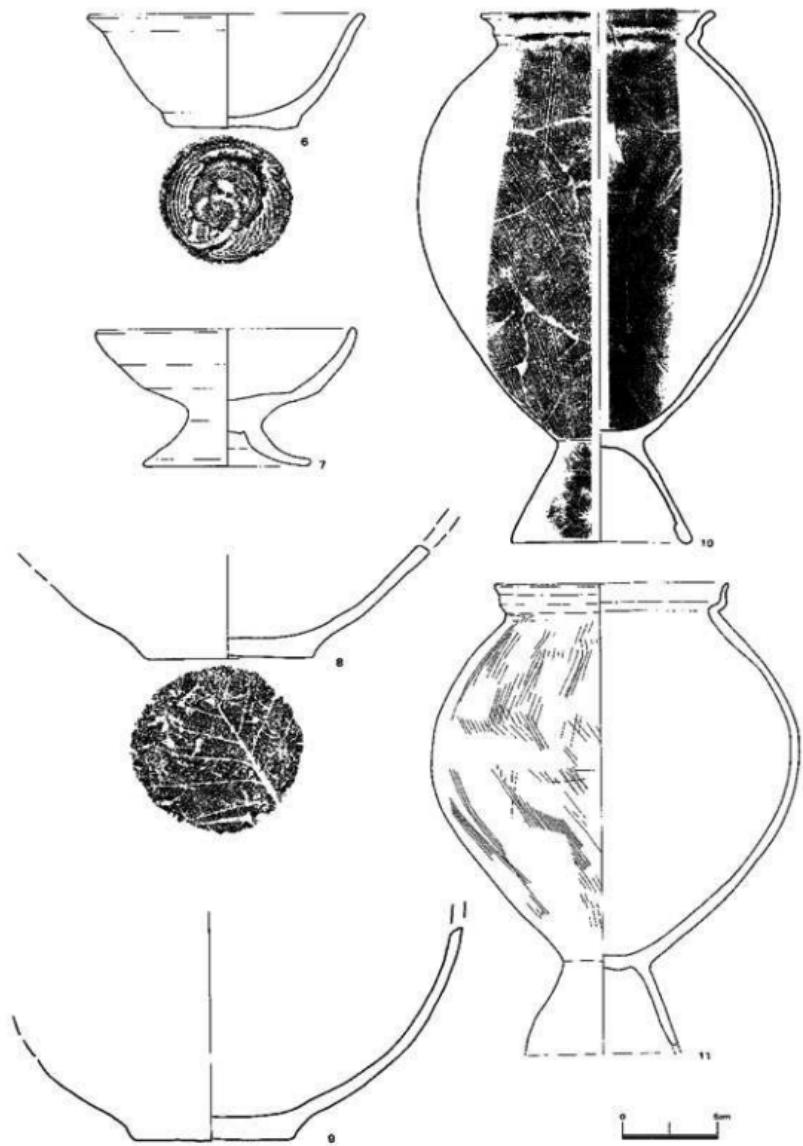
第17図 3号竖穴状遺構・出土遺物

【第8表】 3号竖穴状遺構出土遺物観察表

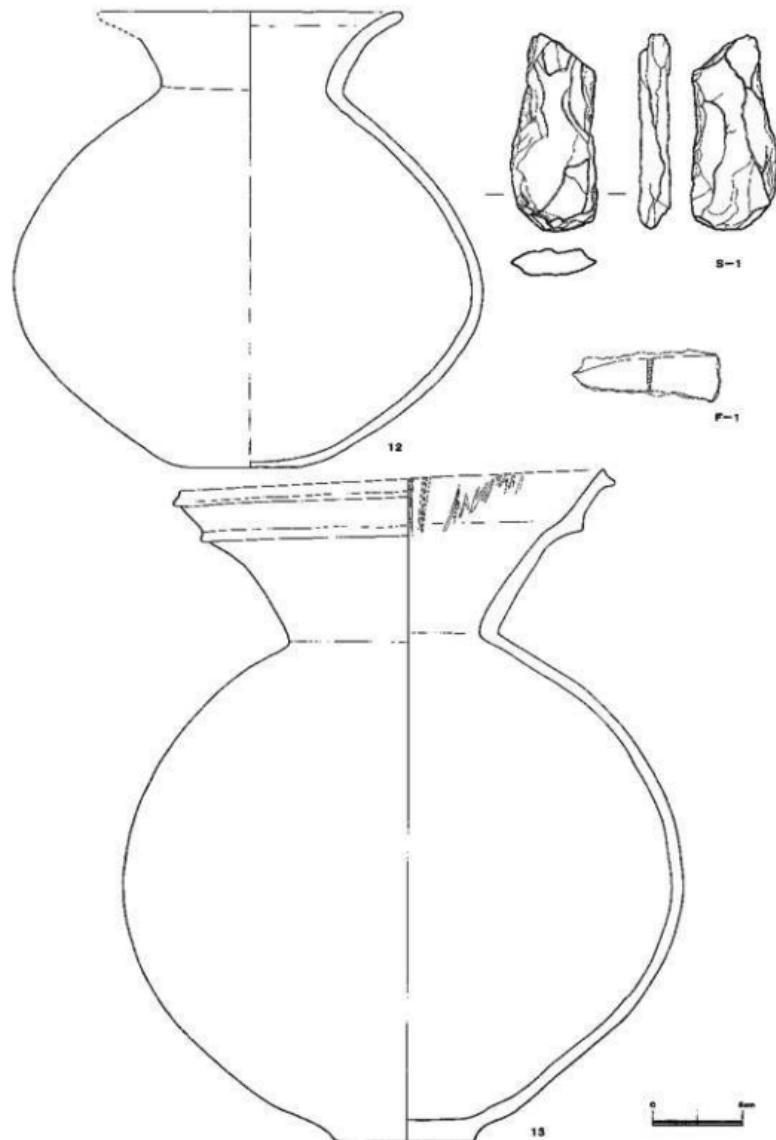
| No | 器種 | 器 形 | 計面積 | 断 上 | 色 滴 | 度 底 | 器形・技法の特徴 |
|-----|----------|--------------|---------------------------------------|---------------|------|-----|--|
| 1 | 土器器 上 | ミニチュア 器 台 | 器高 4.5 cm 口径 5.05cm 底径 2.0 cm | 石英、金雲母 を含む | 茶褐色 | 良 | 全体を横ナデ仕上げ。 |
| 2 | 土器器 | 器 台 | 口径 9.0 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 器受部中央に直径1.2cmの円孔を有す。 口辺部横ナデ仕上げ。 |
| 3 | 土器器 | 高 坯 | 底径 8.8 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 断面横ナデ仕上げ。 内・外表面脚部へラ磨き。 |
| 4 | 土器器 | 器 台 | 器高 11.4 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良 | 脚部に直径1.3cmの円孔が3ヶ所穿た れています。 器受部中央に直径0.8cmの円孔を有す。 |
| 5 | J-師器 | 壇 | 器高 11.2 cm | キメ細かい | 淡茶褐色 | 良 | 外表面口沿部から脚上半部にかけて竪方 向のヘラ磨き。内面口沿部から脚部に かけて斜め方向のヘラ磨き。 |
| 6 | 土器器 | | 脚部 15.8 cm | キメ細かい | 茶褐色 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 |
| S-1 | 石製品 | 石 箸 | 最大長 7.5 cm 最短長 3.9 cm 最厚 0.7 cm | 石材 粘板岩 | | | |
| F-1 | 鉄製品 | 刀 子 | 直長 9.1 cm 厚 1.4 cm | | | | |
| F-2 | 鉄製品 | 鎌 先 | 直長 4.7 cm 厚 8.1 cm | | | | |



第18図 1号祭祀遺構・出土遺物（1）



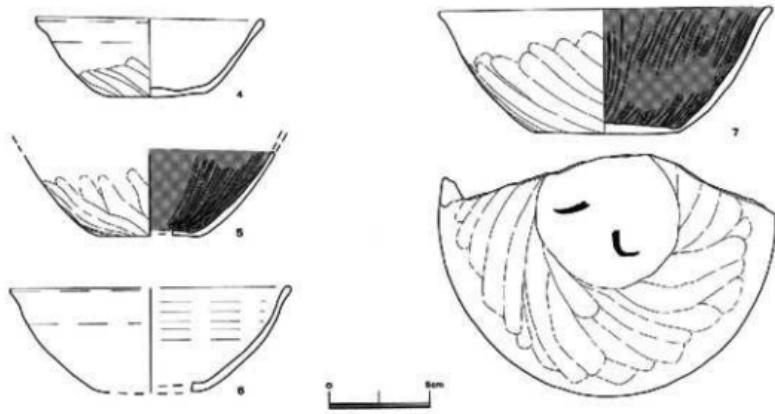
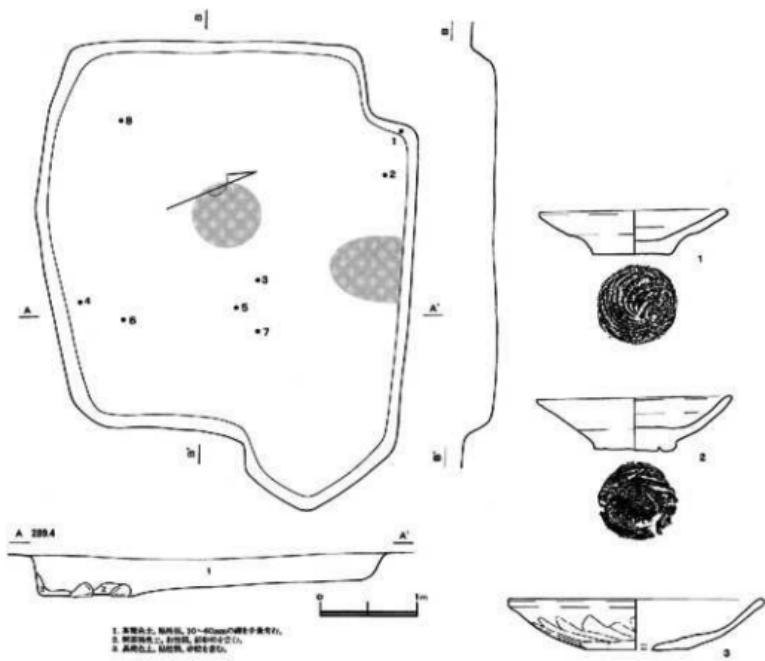
第19図 1号祭祀遺構・出土遺物（2）



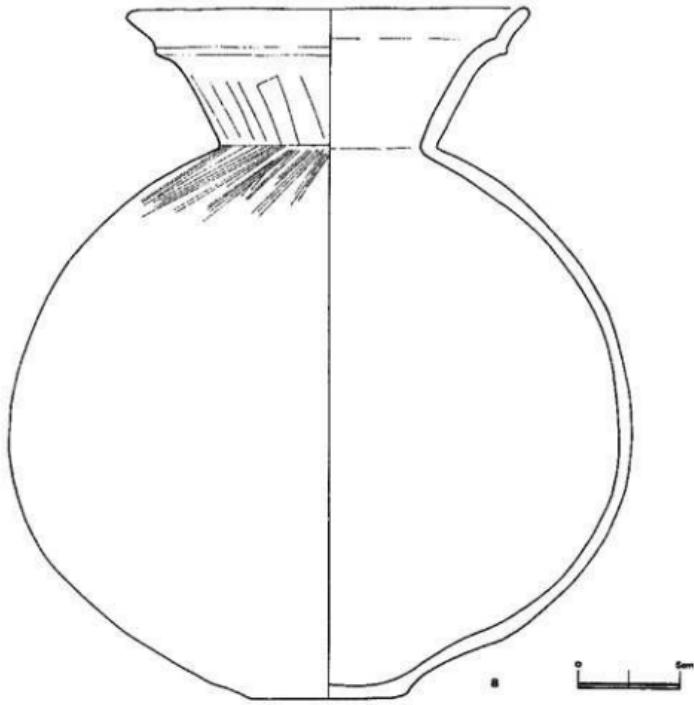
第20図 1号祭祀遺構・出土遺物（3）

【第9表】 1号祭祀遺構出土遺物觀察表

| No | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 勘 定 | 色 調 | 燒 成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|------------|--------------|---------------------------------------|---------------------|------|-----|---|
| 1 | 上師質 十 | ミニチュア 器 | 器高 3.7 cm 口径 4.8 cm 底径 4.2 cm | 金雲母を多く含む | 暗茶色 | 良好 | 内・外側部及び口辺部横ナナ付上げ。 底部系切痕。 |
| 2 | 土師質 上 | 小 盆 | 器高 2.45cm 口径 4.0 cm 底径 4.3 cm | 金雲母を含む | 淡茶色 | 良 | 内・外側部及び口辺部横ナナ付上げ。 底部系切痕。 |
| 3 | 土師器 | 皿 | 底径 4.1 cm | 赤色粒子を含む | 淡茶色 | 良 | 外側底部及び体部へラ削り。 外側底部に「△」の墨書き有り。 |
| 4 | 土師器 | 皿 | 器高 2.85cm 口径 12.35cm 底径 4.0 cm | 赤色粒子を含む | 茶褐色 | 良 | 口辺部横ナナ付上げ。 外側底部及び体部へラ削り。 |
| 5 | 土師質 土 器 | 坏 | 器高 4.0 cm 口径 12.2 cm 底径 4.6 cm | 赤色粒子を含む | 深褐色 | 良好 | 口辺部横ナナ付上げ。 外側底部及び体部へラ削り。 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 器高 6.15cm 口径 14.6 cm 底径 7.0 cm | 金雲母を多く含みキメ細かい | 暗茶褐色 | 良好 | 内・外側部及び口辺部横ナナ付上げ。 底部系切痕。 |
| 7 | 土師器 | 高 坏 | 器高 7.4 cm 口径 13.5 cm 底径 8.7 cm | キメ細かく緻密 | 茶褐色 | 良好 | 口辺部横ナナ付上げ。 外側底部及び脚部へラ削り。 |
| 8 | 土師器 | 壺 | 底径 9.2 cm | 長石、雲母を含みキメ粗い | 茶褐色 | やや良 | 内面側部及び底部ハケ目。 外側側部へラ削り。 底部不整形。 |
| 9 | 土師器 | 壺 | 底径 8.4 cm | 長石、金雲母を多く含む | 茶褐色 | 良 | 外側削下平部へラ削き。 内面削下平部ナナ付上げ。 内面底部へラ整形。 |
| 10 | 土師器 | S字状口 縁台付壺 | 器高 28.6 cm 口径 12.5 cm 底径 9.8 cm | 全雲母を含む | 黑茶色 | 良 | 口辺部横ナナ付上げ。 外側底部から腰上部 部にかけて墨万両のハケ目。腰上半周より 底部にかけて斜め方向のハケ目。 |
| 11 | 土師器 | S字状口 縁台付壺 | 器高 25.5 cm 口径 12.55cm | 金雲母を含む | 黑茶色 | 良 | 口辺部横ナナ付上げ。 外側底部墨万両のハケ目。外側上半周より 底部にかけて斜め方向のハケ目。 |
| 12 | 土師器 | 壺 | 器高 25.75cm 口径 17.0 cm 底径 8.0 cm | 長石を含みキ メ粗い | 茶褐色 | 良 | 外向側部及び内外側口辺部へラ削き。 |
| 13 | 土師器 | 壺 | 器高 38.4 cm 口径 24.0 cm 底径 7.7 cm | 長石、金雲母を多く含みキ メ粗い | 淡茶色 | 良 | 有腹口壺。内面口辺部底方向のハラ磨き。 外向側上半周に縱方向のハケ目が後後に着 取される。 |
| S-1 | 石 器 | 打製石斧 | 器高 10.9 cm 口径 4.2 cm 底径 1.7 cm | 石 粘 板 岩 | 材料 | | |
| F-1 | 鉄製品 | 刀 子 | 長さ 8.3 cm 幅 2.6 cm | | | | |



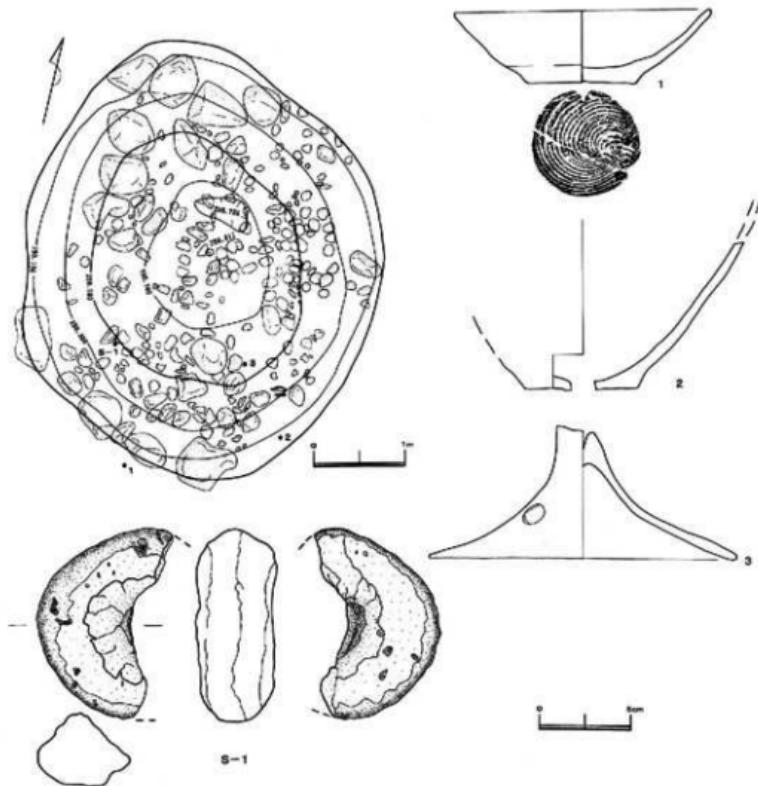
第21図 2号祭祀遺構・出土遺物（1）



第22図 2号祭祀遺構・出土遺物(2)

【第10表】 2号祭祀遺構出土遺物観察表

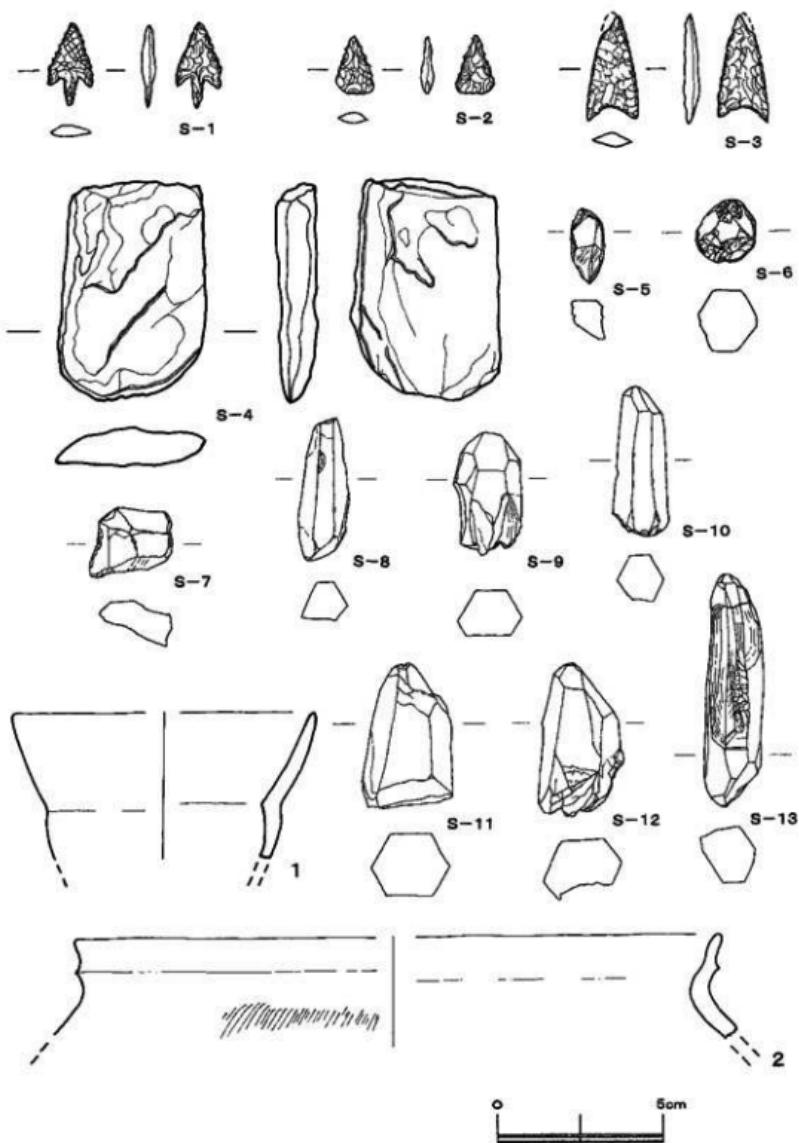
| No. | 器種 | 器 形 | 計 測 値 | 胎 土 | 色 調 | 焼 成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|------------|-----|---------------------------------------|-------------------------|-------------------|-----|--|
| 1 | 土師質 土 器 | 小 盆 | 器高 2.2 cm 口徑 9.5 cm 底径 4.0 cm | 金雲母を多く含む | 茶 楔 色 | 良 | 内・外表面部及U字部横ナデ仕上げ。 底部余切痕。 |
| 2 | 上師質 上 簋 | 小 盆 | 器高 2.6 cm 口徑 9.8 cm 底径 3.9 cm | 金雲母を多く含む | 暗茶褐色 | 良 | 内・外表面部及び口辺部横ナデ仕上げ。 底部余切痕。 |
| 3 | 土師器 | 皿 | 器高 2.6 cm 口徑 12.8 cm 底径 5.0 cm | キメ細かく緻密 | 橙 楔 色 | 良 | 外表面部及び底部ヘラ削り。 口辺部横ナデ仕上げ。 内面口辺部無仕面。 |
| 4 | 上師器 | 坏 | 器高 4.2 cm 口徑 11.4 cm 底径 5.2 cm | キメ細かい | 茶 楔 色 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外表面部下半ヘラ削り。 外表面部系切削、ヘラ調整。 |
| 5 | 土師器 | 坏 | 器高 5.0 cm | キメ細かく緻密 外面 黑褐色 | 内面 黑褐色 外面 淡茶色 | 良好 | 内里上部 外表面部下半ヘラ削り。 内面体部ヘラ磨き。 |
| 6 | 土師器 | 坏 | 器高 5.2 cm 口徑 13.7 cm 底径 5.0 cm | 赤色粒子を含む | 橙 楔 色 | 良 | 口辺部横ナデ仕上げ。 外表面部下半ヘラ削り。 |
| 7 | 上師器 | 坏 | 器高 6.3 cm 口徑 16.7 cm 底径 7.2 cm | キメ細かく緻密 | 内面 黑褐色 外面 明茶褐色 | 良好 | 内里土器。口辺部横ナデ仕上げ。 外表面部及底部ヘラ削り。内面縱方向の磨き。 外表面部に「V」の溝有り。コクロ右向板。 |
| 8 | 土師器 | 瓶 | 器高 34.6 cm 口徑 19.4 cm 底径 8.0 cm | 長石、金雲母 を含み、キメ 細かい | 淡 茶 色 | 良 | 有段口継。口辺部横ナデ仕上げ。 外表面部下半ヘラ削り。外表面部に縦方向のハケ目。 胴下半部にかけて縱方向のヘラ磨き。 |



第23図 墳・出土遺物

【第11表】 墳出土遺物観察表

| No | 器種 | 器形 | 計測値 | 胎土 | 色調 | 洗成 | 器形・技法の特徴 |
|-----|-----------|----|--------------------------------------|-----------|------|----|---|
| 1 | 土師質 土器 | 壺 | 器高 4.1 cm 口径 14.0 cm 底径 6.0 cm | 金雲母を多く含む | 暗茶褐色 | 良好 | 内・外面全体及び口邊部横ナデ仕上げ。 底盤系切削。 ロクロ右旋軸。 |
| 2 | 土面器 | 瓶 | 底径 6.2 cm | 石英、金雲母を含む | 桜褐色 | 良 | 底盤中央に直径1.4cmの円孔が内側から外側に向かって穿たれている。 外面部下半部ヘラ磨き。 |
| 3 | 土師器 | 高壺 | 底径 17.0 cm | キメ細かく緻密 | 明茶褐色 | 良 | 腹部に直径1.4cmの円孔が外側から内側に向かって穿たれている。 底部横ナデ仕上げ。外面部ヘラ磨き。 |
| S-1 | 石製品 | 四石 | 最大幅 10.5 cm 最大厚 4.2 cm | 石材 安山岩 | | | |



第24図 遺構外出土遺物

【第12表】 遺構外出土遺物観察表（石器・石製品）

| No | 器種 | 現存長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | グリット |
|------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|-------|
| S-1 | 有茎石鑿 | 2.5cm | 1.3 cm | 0.45cm | 0.78g | 黒曜石 | 確認面 |
| S-2 | 尖頭器形石鑿 | 3.3cm | 1.5 cm | 0.5 cm | 0.53g | 黒曜石 | 確認面 |
| S-3 | 尖頭器形石鑿 | 1.8 cm | 1.2 cm | 0.4 cm | 1.61g | 黒曜石 | 確認面 |
| S-4 | 打製石斧 | 6.6 cm | 4.5 cm | 1.25cm | | 粘板岩 | 確認面 |
| S-5 | | 2.3 cm | 1.0 cm | 1.2 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-6 | 水晶製丸卡 | 1.9 cm | 直径 | 1.9 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-7 | | 1.9 cm | 2.4 cm | 0.9 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-8 | | 4.1 cm | 1.5 cm | 1.2 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-9 | | 3.8 cm | 2.05cm | 1.4 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-10 | | 4.5 cm | 1.7 cm | 1.45cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-11 | | 4.3 cm | 2.75cm | 1.9 cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-12 | | 4.6 cm | 2.5 cm | 1.55cm | | 水晶 | C - 7 |
| S-13 | | 7.1 cm | 1.7 cm | 1.7 cm | | 水晶 | C - 7 |

【第13表】 遺構外出土遺物観察表（土器）

| No | 器種 | 器 形 | 計測値 | 胎 士 | 色 調 | 燒 成 | 胎形・技法の特徴 | グリット |
|----|-----|--------------|------------------------|----------------|------|-----|-------------------------------|-------|
| 1 | 上師器 | 堆 | 範 ^a 9.0 cm | キメ細かい | 明茶褐色 | 良 | 口沿部横ナデ仕上げ。 内面口沿部へク磨き。 | C - 6 |
| 2 | 土師器 | S字状口 縁台付型 | 範 ^a 19.3 cm | 全表面は、石 灰を含む | 明茶褐色 | 良 | 口沿部横ナデ仕上げ。 外側底部から斜め方向のハケ目。 | C - 6 |

第3章 御岳田遺跡出土水晶について

山梨県は山々に囲まれた環境下にあって、古くから天然の水晶を多く産出する地域として知られてきた。水晶の原産地に近接する縄文時代の集落跡からは、水晶を用いた石器が確認され、また古墳時代には水晶を利用した首飾りのバーツが盆地全域に造られた古墳の多くから認められる。例えば4世紀後半に建造された関東屈指の前方後円墳である甲斐銚子塚古墳では水晶製の勾玉が1点認められ、6世紀代になって造営される郡衆塚からは切子玉等の水晶製玉類の出土が知られている。実際水晶の硬度は尖用品である石器に適し、また透明感のある美しさは装飾品だけでなく現代でも呪術的な意味合いを持つ道具として用いられるなど、各方面で多用されている。

本遺跡の落ち込み部分からは8点の水晶原石と1点の水晶製丸玉未製品がまとめて出土した。水晶の原石はほとんどが六角柱で、黄茶褐色の付着物が観察できるものもある。水晶製丸玉未製品は六角柱を呈する水晶原石の柱頭及び柱尾を削り取った多面体の状態である。多面体を観察することができる、この後六面体を構成する後線部分を研磨し、丸玉へ形成した上で、紐を通す孔を空孔するものと推定できる。この資料は県内の水晶製丸玉の製作過程を知る貴重な資料である。遺構が明確でなく、製作に関連する遺物の出土も見られないことから、直ちに玉作り工房跡であると断定はできないが、今まで県内では発見されていなかった玉作り工房跡の存在をおおいに示唆するものである。其伴する土器群の年代観から、これらの資料は4世紀後半位に位置づけることが可能である。

水晶製玉類の製作は弥生時代中期から見られる。京都府弥栄町奈具岡遺跡はその代表的なものであり、水晶を含む玉類の施策に携わった玉房跡である堅穴住居跡36軒が確認されている¹⁾。また弥生時代後期から古墳時代前期にかけて山陰地方では盛んに水晶製玉類の製作が行われる。当地では古墳時代の玉作り遺物に貫して水晶が用いられていることから、やがて水晶製切子玉へ発展していくと推定される²⁾。

さて本遺跡と同時期に関東地方で営まれていた玉作り遺跡は、神奈川県・千葉県・茨城県・埼玉県・群馬県等で確認されており、そのほとんどは碧玉や緑色凝灰岩を用いた管玉の製作が中心となっている。また瑪瑙材を用いて勾玉を製作したものや滑石を用いたものも若干見受けられる。これらのほとんどは古墳時代前期以降、継続することなく消滅する³⁾。一方この時期、長野県においても社葬人遺跡等の玉作り遺跡が発掘調査されている。このように見てきた時、本遺跡に玉作り工房跡が存在したとするならば、関東甲信地方で興る玉作り集団の一つともいえよう。

このようにして製作された水晶製の玉類がいったいどこへもたらされたのかは不明である。県内の歴期の古墳及び集落からはいずれも水晶製丸玉の出土は認められていない。今後これら盆地内で製作された玉類が、どのように供給されたのか、そのルートを知ることで該期の交易範囲を推定することができる。本遺物は本県においてこれまで未解明であった製作技術の一つを知る上で極めて貴重な資料であると言える。

- 1) 増田孝彦・田代弘 1993 「奈具岡遺跡」 『京都府遺跡調査概報第55号』 (財) 京都府埋蔵文化財調査センター
- 2) 川村好密 1986 「玉牛の生産と流通」 『岩波講座 日本書紀』 第3巻 岩波書店
- 3) 寺村光晴 1975 『古代玉作形成史の研究』 吉川弘文館

(右神孝子)

第4章 ま と め

敷島町にはこれまでの発掘調査によって、南北に2本の微高地（尾根）が存在することが確認されている。現在肉眼ではほぼ平坦地形を呈しているが古代においては、東西に河川と微高地が連続して存在していたものと考えられる。そして、この微高地上に遺跡の分布が認められている。御岳田遺跡は敷島町西側に位置する微高地上に営まれた集落跡と言えよう。御岳田遺跡の南約500mを中心に広がる環濠集落遺跡金の尾遺跡も御岳田遺跡と同じ微高地上に営まれた遺跡であり、今後両遺跡の関連性にも注目したい。

御岳田遺跡は、住居跡が6軒と比較的少なかったが、微高地上での遺跡の存在や占墳前・中期、平安後期の住居の発見によって、これまで空白であった甲府盆地北西部荒川右岸地域の同時期集落形成の一端を解明することができた。

【古墳時代】

現在山梨県における3世紀から5世紀にかけての土器編年については幾つかの論考が提出され、ある程度の時期区分が定着しつつある。

御岳田遺跡から出土した古墳時代の土器についても、出土遺構ごとにそれぞれ様相が異なる。第14表は遺構時期分類である。

古墳時代の遺構、遺物はすべて前期から中期に位置付けられるものであり、一つの特徴を示す。

先にも記したが、遺跡南方約500mを中心にはる弥生時代後期の環濠集落金の尾遺跡の第6次調査において、環濠が1mほど堆積した時期に4世紀末から5世紀代にかけての器台や壺型土器などが多くあたかも投棄されたかのような状況で出土している。金の尾遺跡内において、当該期の住居跡は1軒しか確認されておらず、今後両遺跡の相關関係に注目したい。

| 御岳田 | 遺構名 | 時期 |
|-----|--------------------------|---------|
| I | 1号住居・3号竪穴 (6号住居) | 4C中～5C初 |
| II | 5号住居 | 4世紀末葉 |
| III | 1・2号祭祀 | 5世紀初頭 |
| IV | 2号住居 | 5世紀後半 |
| V | 3号住居・2号祭祀 | 10C中～後半 |
| VI | 4号住居・(6号住居) 2号竪穴・2号祭祀 | 12世紀初頭 |
| 不明 | 1号竪穴 | |

【14表】 遺構時期分類

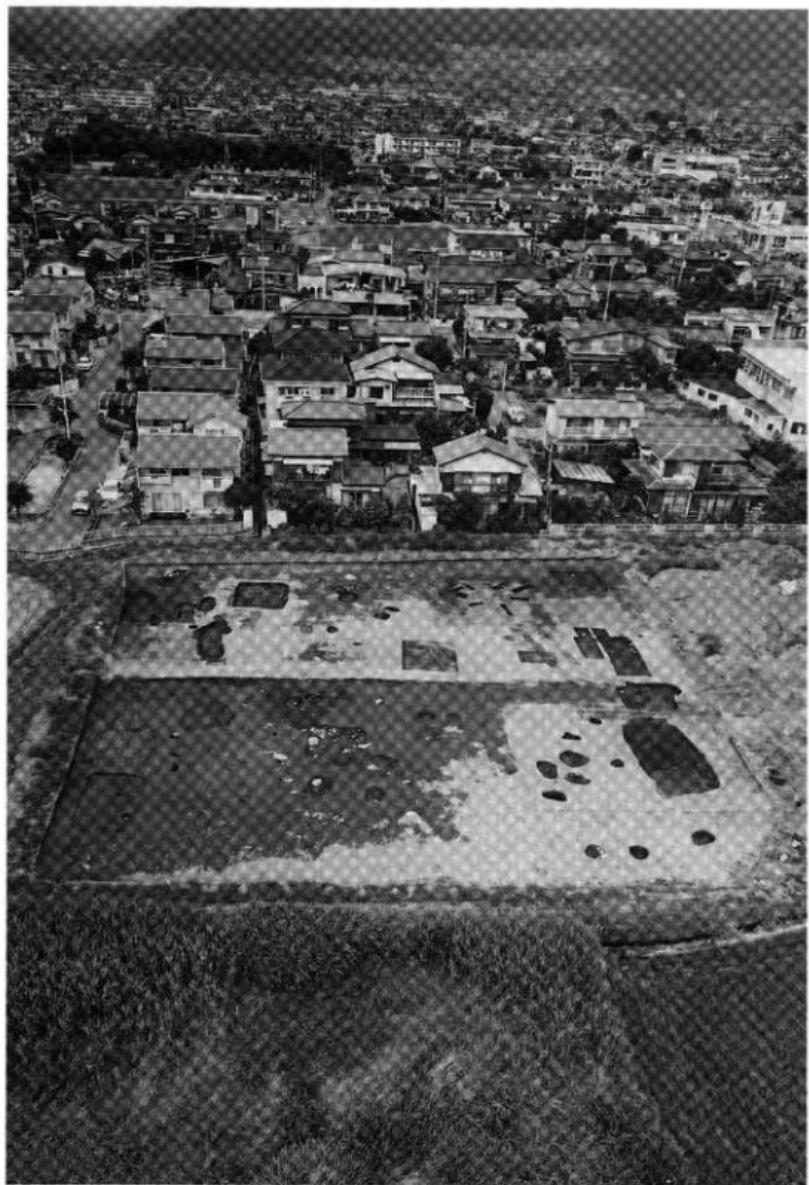
また、塚南側の若干凹地のような場所から出土した水晶の一括品は、付近の同レベルで出土している広II・III縁の丸底土器などの年代から4世紀末から5世紀初頭にかけてのものと認識したい。

【平安時代】

遺跡東側に位置する微高地上に形成された松ノ尾遺跡は、当該期の集落遺跡として知られている。松ノ尾遺跡との対比など遺跡の調査が進展するにつれ、平安期の集落構造の理解が進むであろう。

写 真 図 版

図版 1



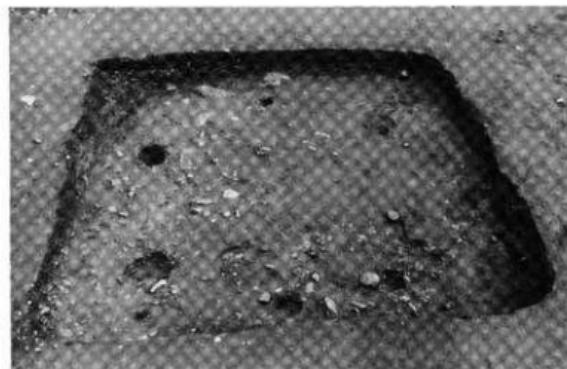
御岳田遺跡全景（南より）



1号住居跡（南より）



2号住居跡（東より）



3号住居跡（南より）

1～3号住居跡全景

図版 3



4号住居跡（東より）



5号住居跡（東より）



6号住居跡（南より）

4～6号住居跡全景



1号竪穴状遺構（東より）



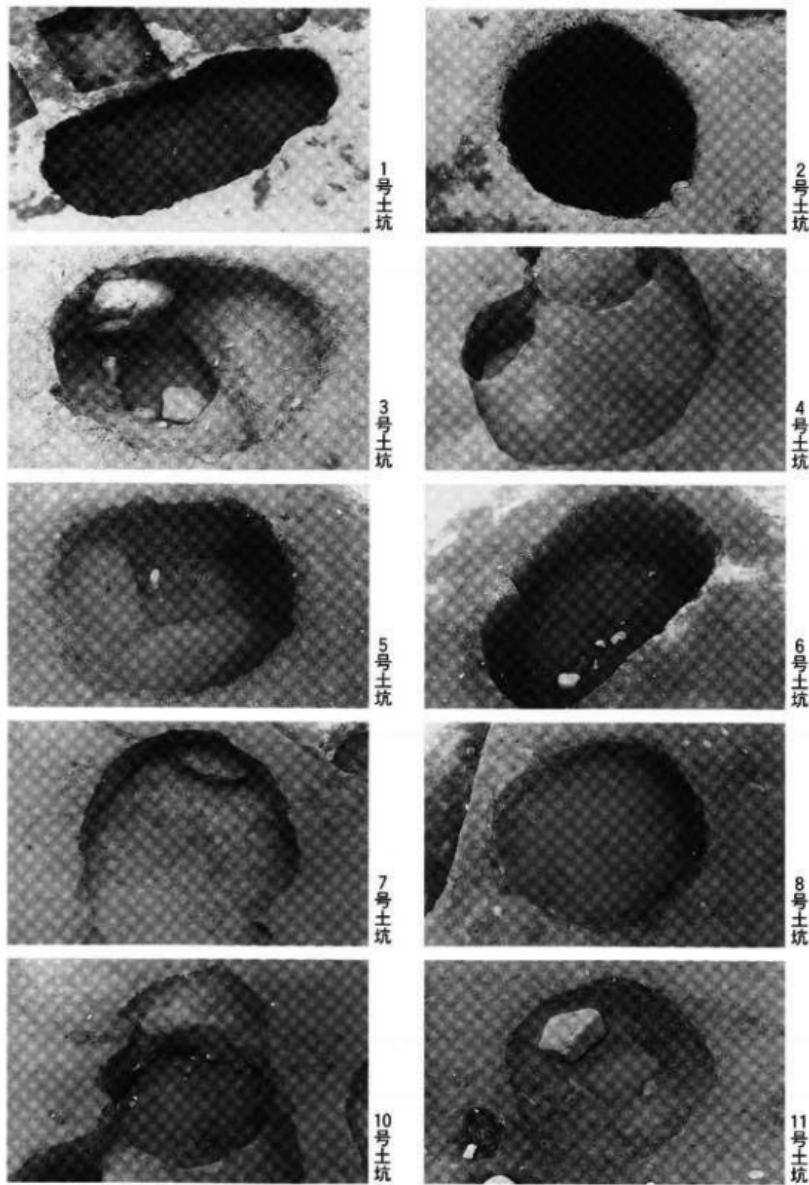
3号竪穴状遺構（南より）



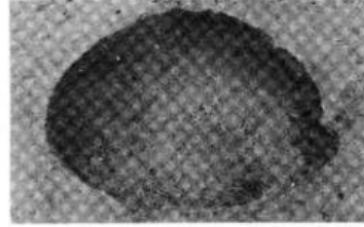
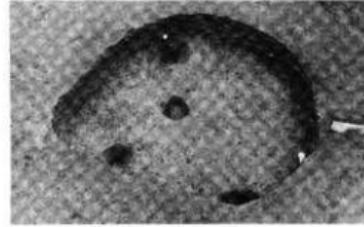
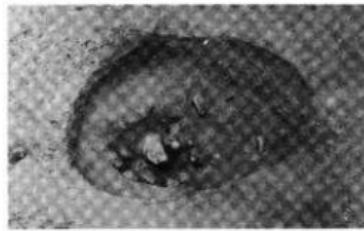
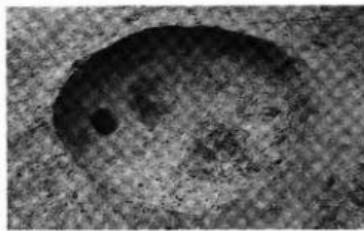
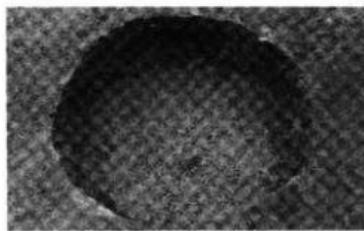
1号祭祀遺構（東より）

1・3号竪穴状遺構、1号祭祀遺構全景

図版 5

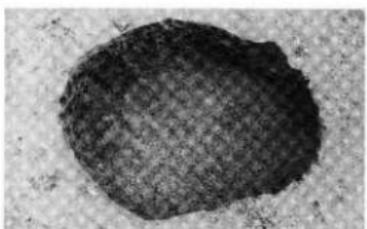
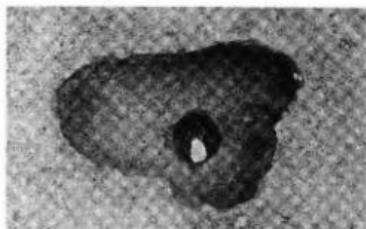


1 ~11号土坑全景

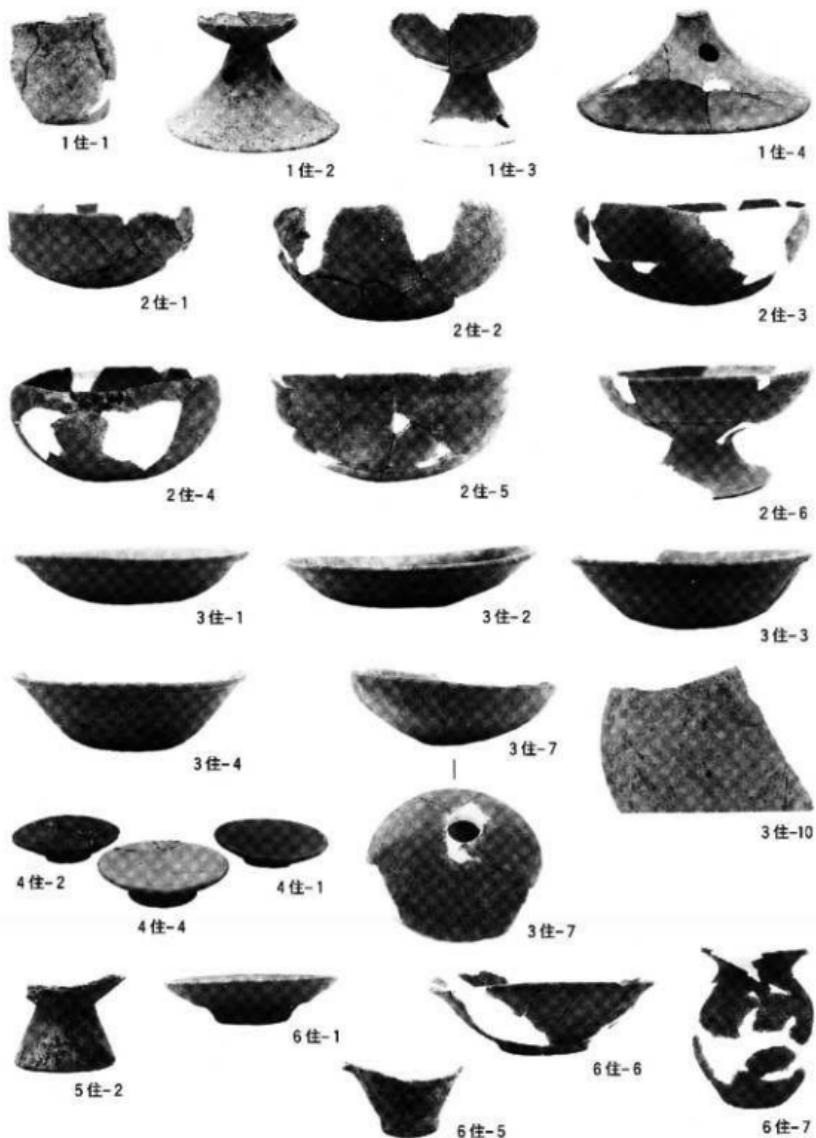


12~21号土坑全景

図版 7

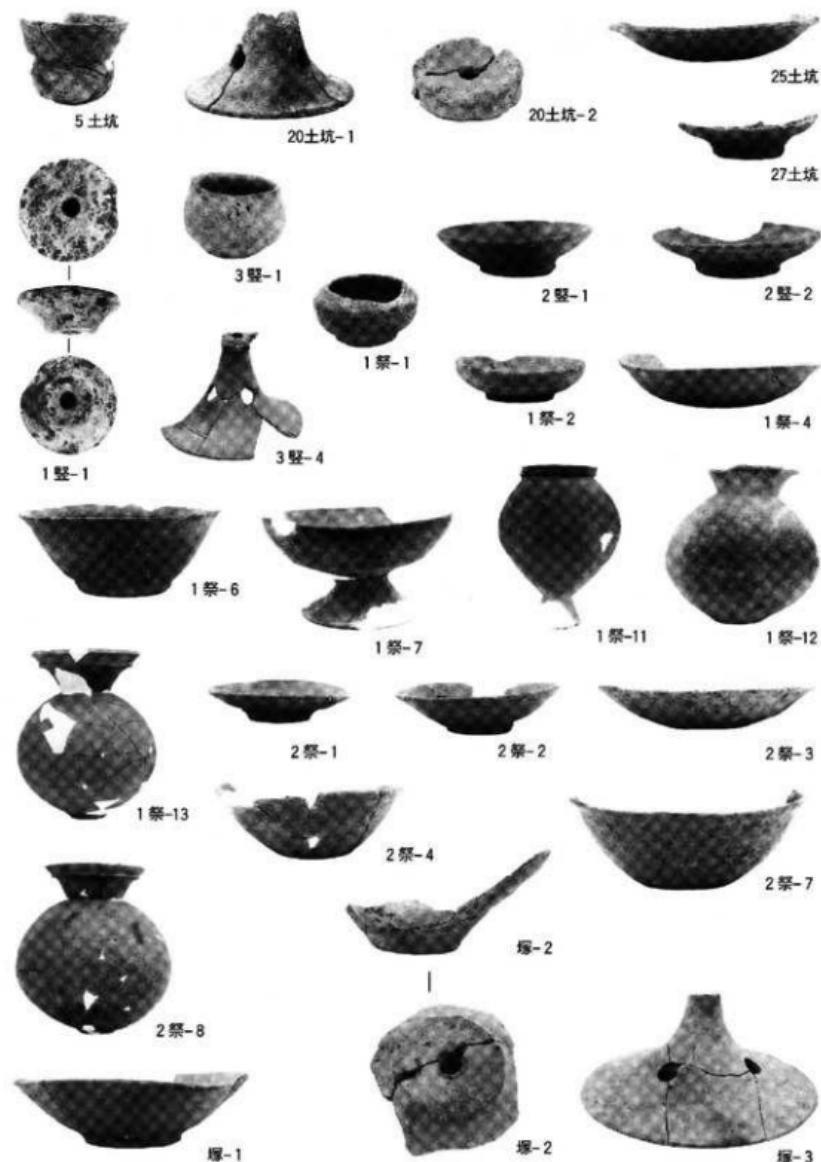


22~27号土坑、塚全景

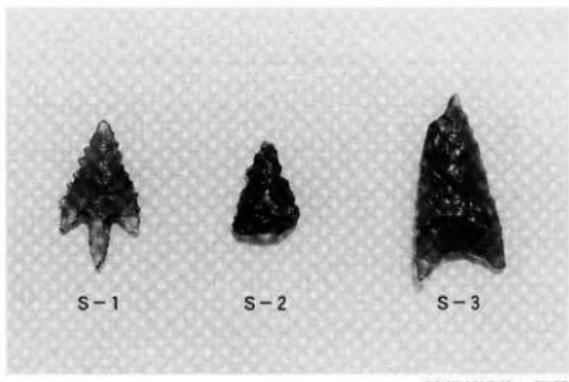


住居跡出土遺物

図版9



遺構出土遺物



報告書抄録

| ふりがな | みたけだいせき | | | | | | | |
|---------------|------------------------------|--------------|----------------------|-----------------|-------------|--------------------------------|------------------------|--------------|
| 書名 | 御岳田遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 敷島町文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 8 | | | | | | | |
| 編著者名 | 大鳥正之 | | | | | | | |
| 編集機関 | 敷島町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒400-0123 山梨県中巨摩郡敷島町烏上条1020 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成11年(1999)9月13日 | | | | | | | |
| ふりがな 所取遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 度分秒 | 度分秒 | | | |
| 御岳田遺跡 | 山梨県 中巨摩郡 敷島町大下条 963 | 193828 | 7 | | | 平成5年 4月7日~ 平成5年 7月12日 | 1500 | 民間店舗 建設事業 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 御岳田遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 平安時代 | 住居跡6 土坑27 祭祀跡2 | 土師器 壺・皿 釜 | 水晶製丸玉末製品の出土 | | | |

敷島町文化財調査報告 第8集

御岳田遺跡

発行日 1999年(H11)9月13日

発行 敷島町教育委員会

山梨県中巨摩郡敷島町烏上条1020

TEL (055) 277-4111

印刷 有限会社 佐藤印刷企画

